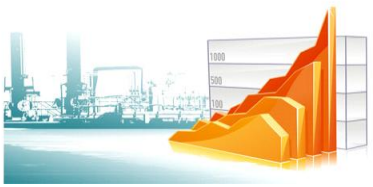
岐阜経済レポート









令和8年9月分

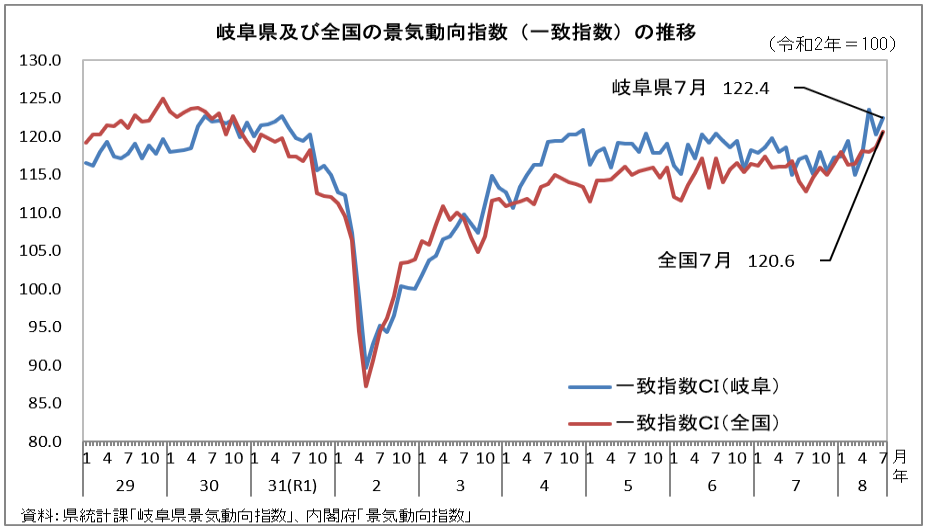
岐阜県商工労働部

※企業等へのヒアリングは9月24日 ～ 28日を中心に実施し、10月28日時点で作成。

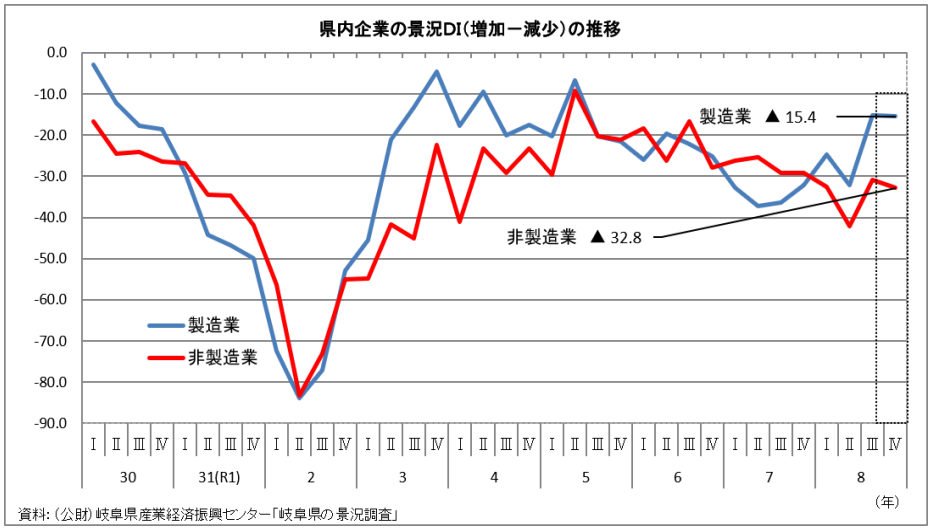
景気動向

○7月の景気動向指数（一致指数）は、122．4で前月比2．1ポイント上昇となった。
○8月の県内中小企業の景況感は、▲19．0で前月比7ポイント上昇となった。

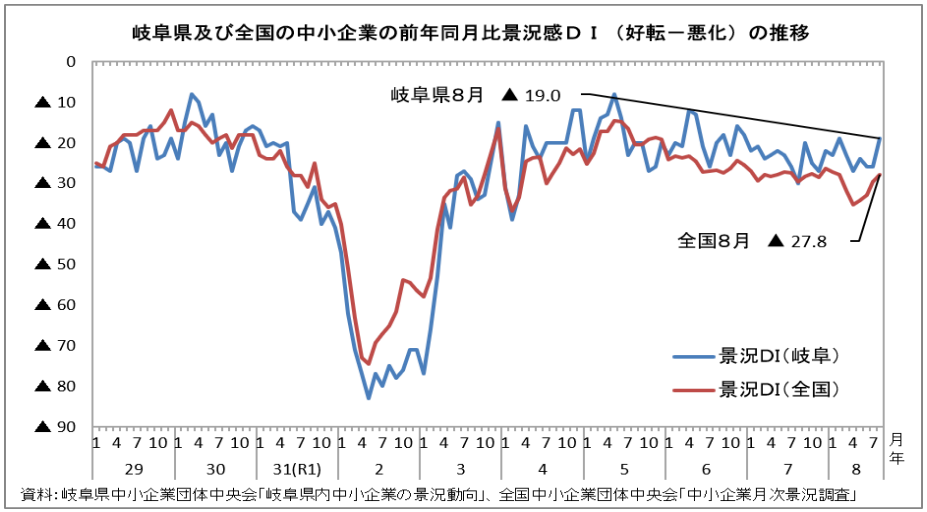
○10－12月期の景況DI見通しは、製造業で前期比▲0．2ポイント、非製造業で▲2．0ポイントとなった。売上高DI見通しは、製造業で前期比▲5．9ポイント、非製造業で同▲5．7ポイントとなった。



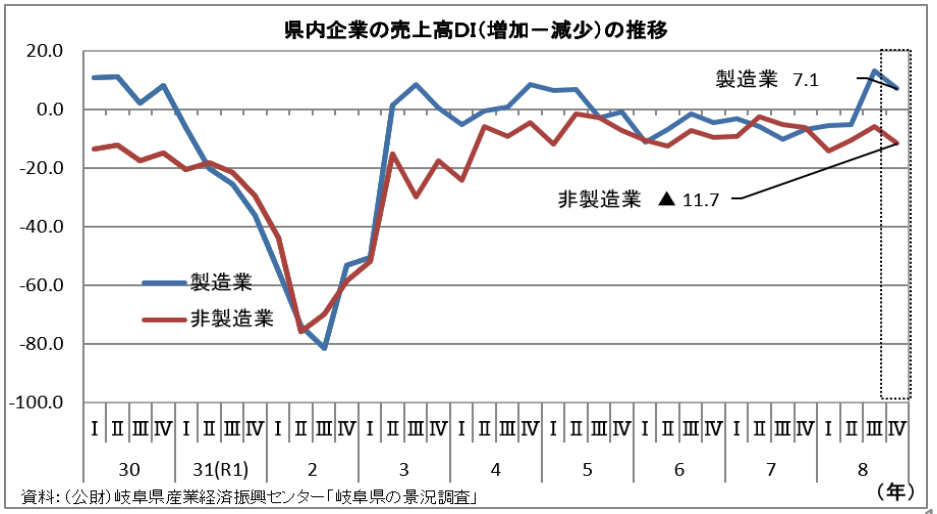
資料：県統計課「岐阜県景気動向指数」、内閣府「景気動向指数」



資料：（公財）岐阜県産業経済振興センター「岐阜県の景況調査」



資料：岐阜県中小企業団体中央会「岐阜県内中小企業の景況動向」、全国中小企業団体中央会「中小企業月次景況調査」

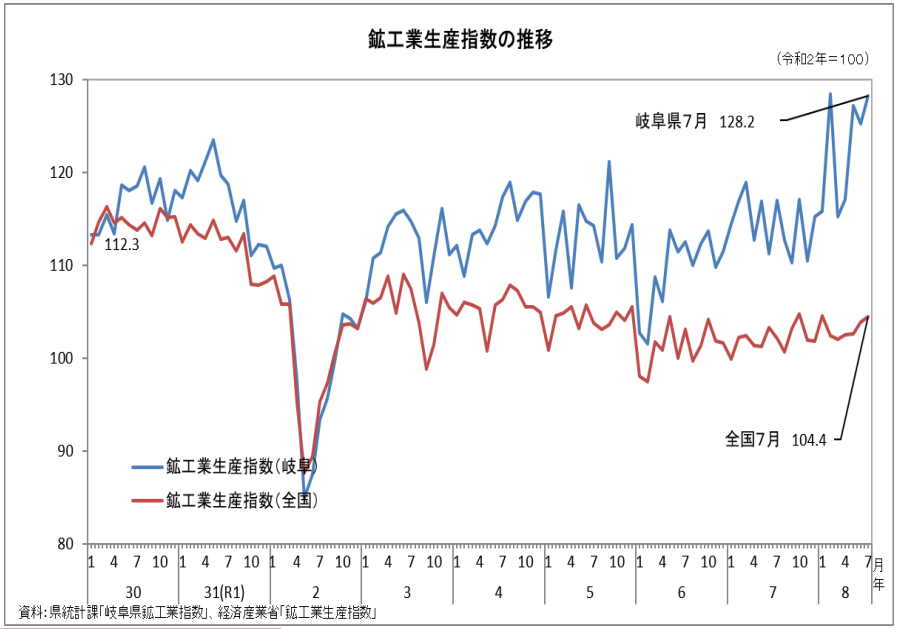


資料：（公財）岐阜県産業経済振興センター「岐阜県の景況調査」

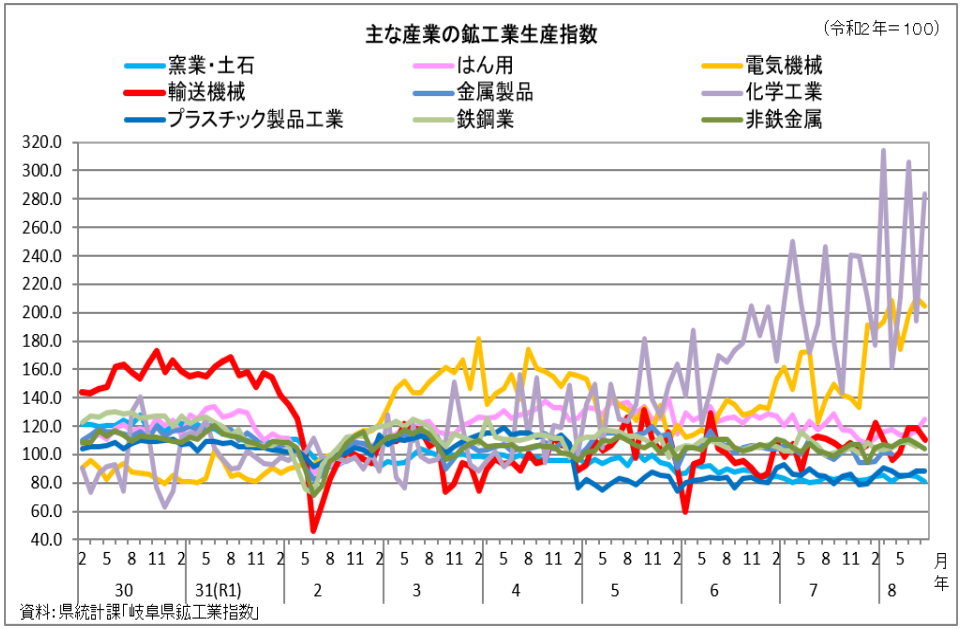
製造業

○7月の県内鉱工業生産指数（季節調整済）は、128．2で前月比2．8%上昇となった。
○7月の全国の鉱工業生産指数（季節調整済）は、104．4で前月比0．5%上昇となった。

○7月の主な産業の指数は、化学工業で前月比46．1%、はん用で同7．4%上昇、プラスチック製品は横ばいで推移した一方、金属製品で同▲7．3%、輸送機械で同▲6．7%、窯業・土石で同▲4．5%、非鉄金属で同▲3．2%、電気機械で同▲2．9%となった。



資料：県統計課「岐阜県鉱工業指数」、経済産業省「鉱工業生産指数」



資料：県統計課「岐阜県鉱工業指数」

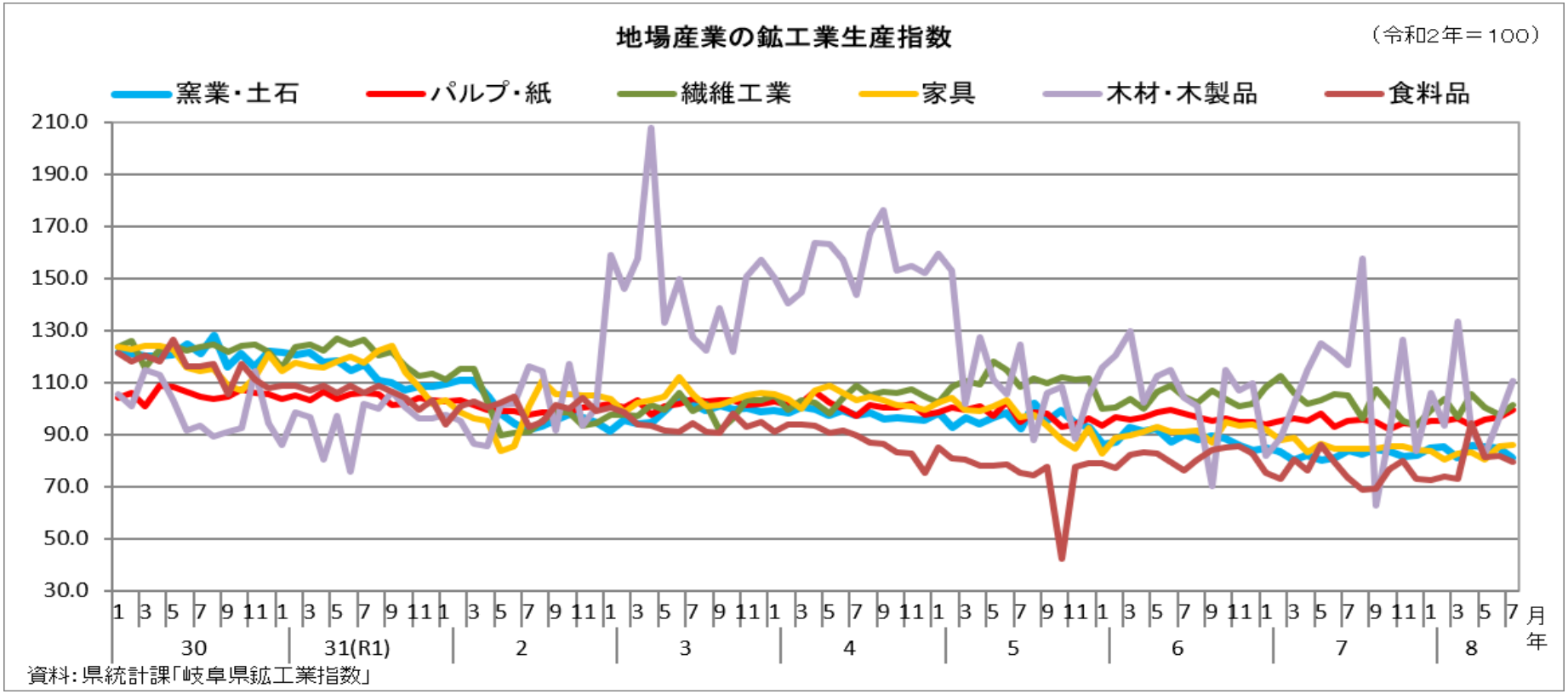
現場の動き

（※中東情勢、熊本地震に伴う経済変動の影響はP6にも掲載）

- ◆ 航空部品については需要拡大に伴い、新規・既存取引先から引き合いが増加。生産能力がオーバーしていたため、製造ラインを増やして対応している。（輸送用機械）
- ◆ 自動車関係の出荷量は横ばいだが、為替相場の影響で増収となっている。（輸送用機械）
- ◆ 売上は過去最高基準になる見込みだが、物価や人件費の上昇、金利の上昇が影響し、利益が圧迫されている。（はん用機械）
- ◆ 中国市場で日本車が売れない状況。（プラスチック製品）

製造業－2

○7月の地場産業（刃物を除く）の鉱工業生産指数は、木材・木製品で前月比14．8%、繊維工業で同4．2%、パルプ・紙で同2．7%、家具で同0．5%上昇した一方、窯業・土石で 同▲4．5%、食料品で同▲2．7%となった。



資料：県統計課「岐阜県鉱工業指数」

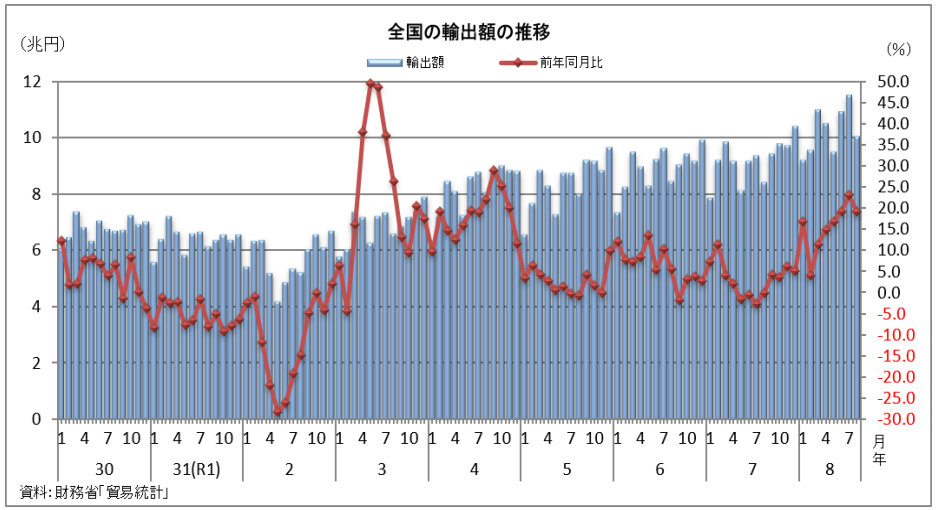
現場の動き

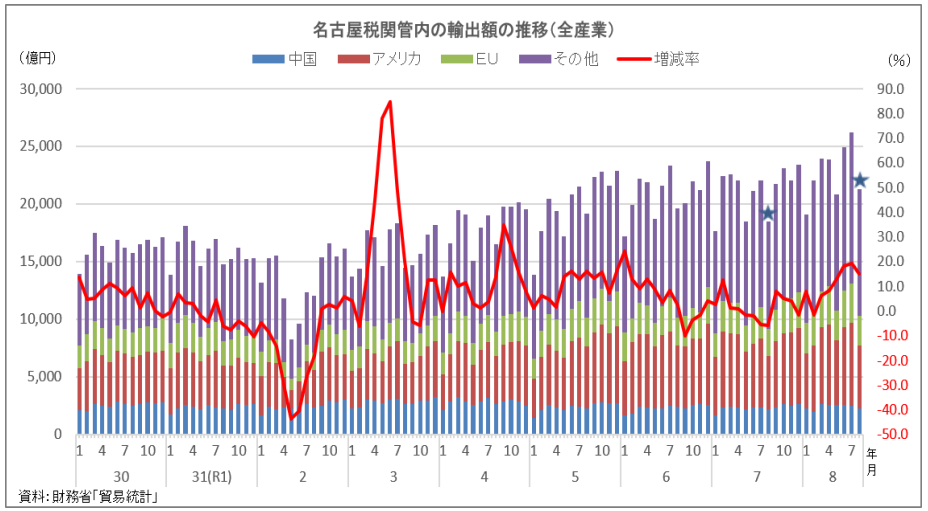
（※中東情勢に伴う経済変動の影響はP6にも掲載）

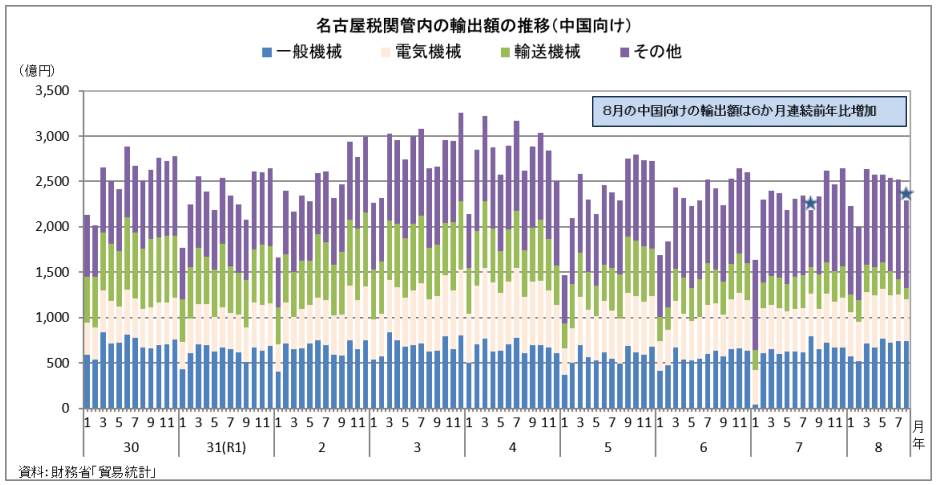
- ◆ 全体の景況感は悪くない。差別化商品やこだわり商品の引き合いが強く、海外の取引や新規の問い合わせも増加。（陶磁器）
- ◆ 小規模事業者としては業界全体の動向を見極めながら価格改定に踏み切らざるを得ないため、タイミングが難しい。市場が縮小している感じが否めない。（パルプ・紙）
- ◆ 住宅ローンの上昇、資材高騰による住宅建設費高騰により、個人向け家具の売れ行きが鈍化している。（木材）

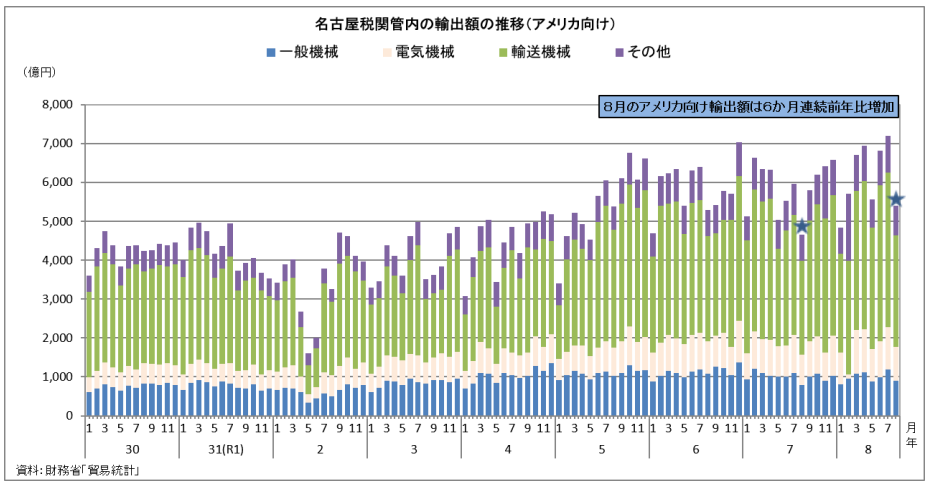
輸　出（名古屋税関管内）

○8月の輸出額（全国）は、10兆433億円で前年同月19．2%増加となった。
○8月の輸出額（名古屋税関内）は、2兆1，276億円で前年同月比15．1%増加となった。
○中国向けは、全体で前年同月比4．9%増加となった。その内、輸送機械で同▲57．3%、一般機械で同▲6．2%、電気機械で同▲3．2%となった。
○アメリカ向けは、全体で前年同月比15．8%増加となった。その内、輸送機械で同18．6%、一般機械で同13．6%、電気機械で同13．0%増加となった。





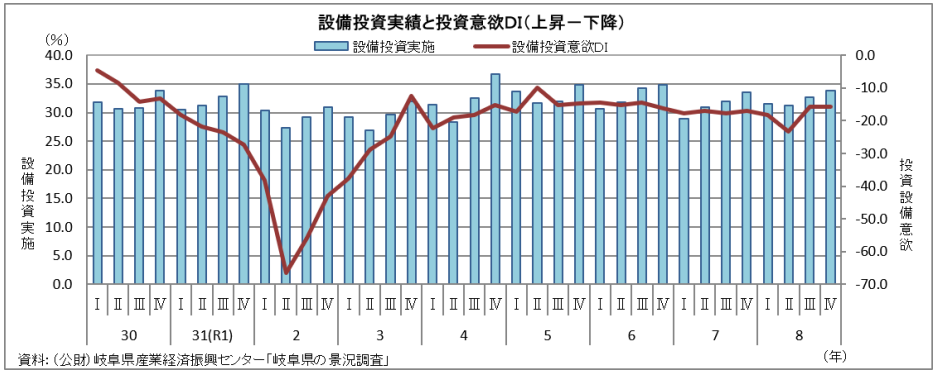


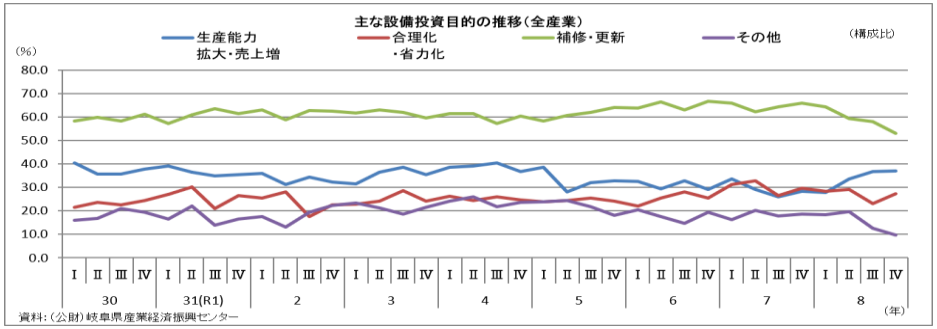


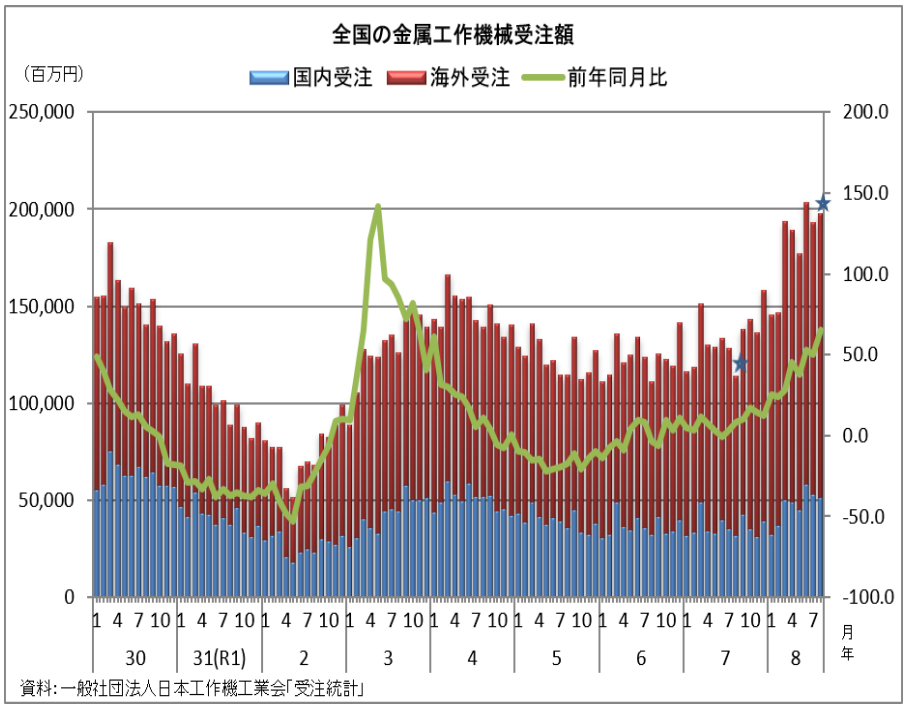
設備投資

○10－12月期の設備投資実施見通しは前期比1．1ポイント上昇、設備投資意欲DI見通しは同0．1ポイント上昇となった。設備投資実施見通しの目的別では「合理化・省力化」で前期比4．1ポイント、「生産能力拡大・売上増」で同0．1ポイント上昇、「補修・更新」で同▲5．0ポイントとなった。

○8月の全国の金属工作機械受注額は、全体では前年同月比65．3%増加と14ヶ月連続で前年を上回った。内訳は海外受注は同78．5%増加と23ヶ月連続、国内受注は同62．4%増加と8か月連続で前年同月を上回った。







現場の動き

- ◆ 国や県、市町村等の補助金を活用し、高圧受電設備の入れ替えや太陽光発電設備の導入を決め、近日中に工事開始。（輸送用機械）
- ◆ 省力化に係る機械設備を導入しており、今後も省力化に対応した設備投資を行う予定。（電気機械）
- ◆ 航空、半導体関連産業などは先行きが明るく、増産対応等を目的とした設備投資に積極的な動きが見られる。（金融機関）

中東情勢等に伴う影響について

- 潤滑油やゴム手袋など副資材の調達困難はほぼ解消された。（輸送用機械）
- 石油製品は順調に入ってくるようになったが、梱包用の袋の出荷が止まってしまった。（輸送用機械）
- 油類の価格の高止まり及び電気料金の値上がりを懸念している。（生産用機械）
- 刃物（ドリル）の材料であるタングステンなどは20%から200%ほど値上がりしている。（はん用機械）
- 材料価格が不安定で価格が上がる見通しがメーカーから出ており、利益が圧迫される。（プラスチック製品）
- ガス代の値上げでメーカーからの値上げ要請が多い。（陶磁器）
- 一時はビニール製の梱包材が入らない状況だったが、現在は安定的に入手できる。ただし、仕入価格は中東情勢の影響が出る前から15%以上上がったまま、高止まりしている。（木工）
- パッケージ等、資材関係の価格は引き続き上昇している。（商店街）
- 乾燥機を2週間止めた影響で乾燥が間に合っていない。（木材）

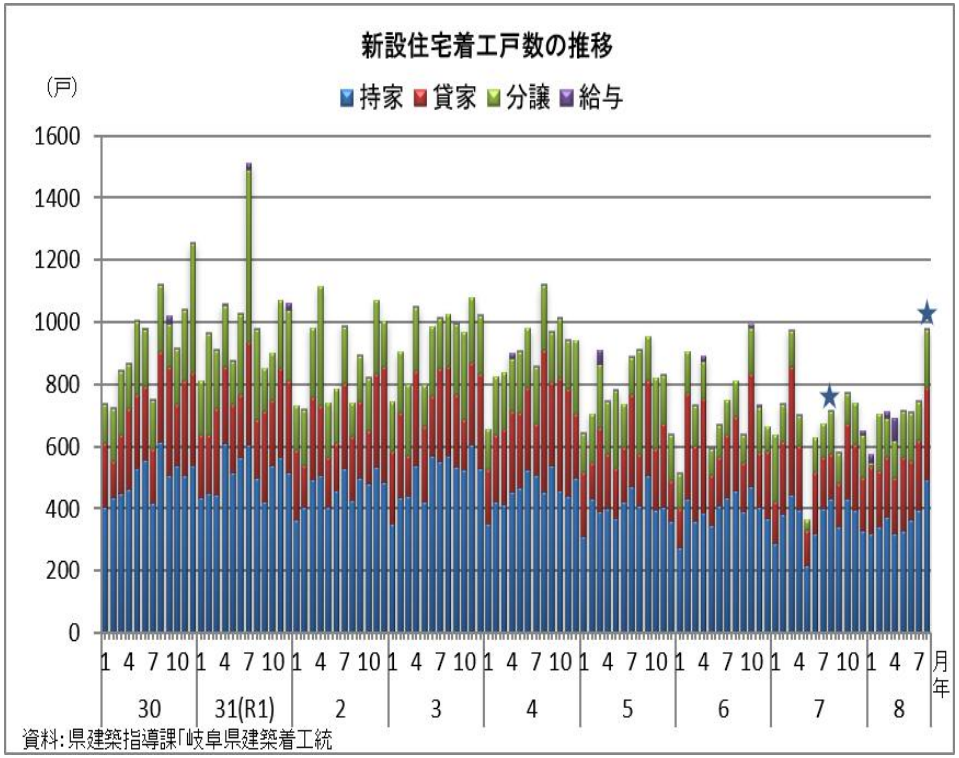
熊本地震、千葉豪雨に伴う影響について

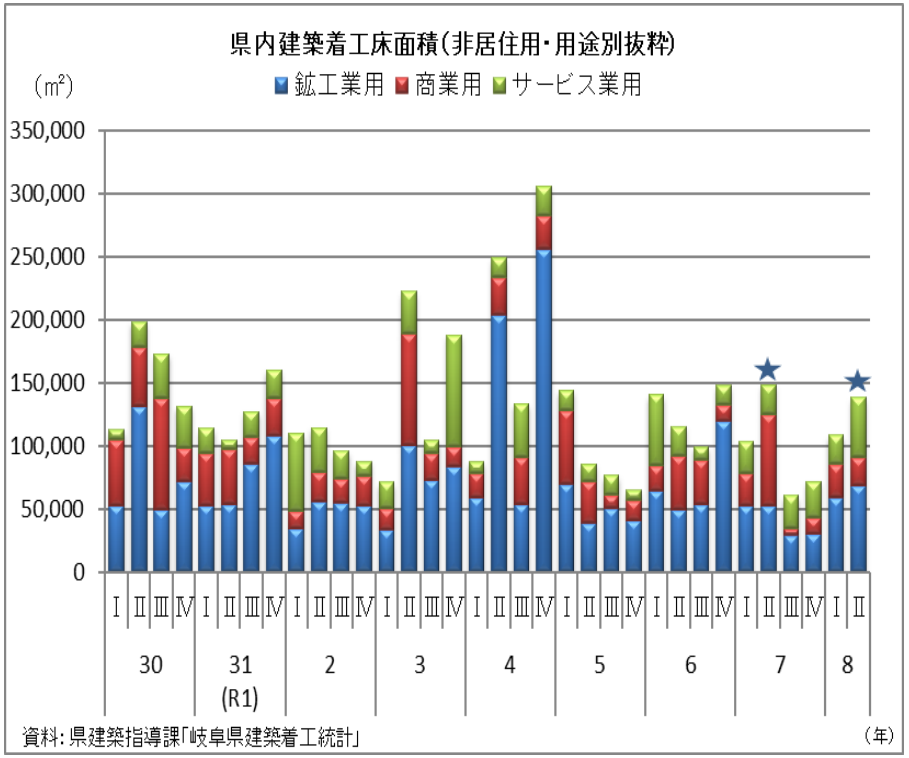
- 熊本地震の影響について、大手自動車メーカーの稼働停止に伴う製造抑制などの問題は解消された。（輸送用機械）
- 熊本地震の影響は8月限定であったが、現在はない。千葉豪雨の影響で1日生産量程度の影響が出ている。（輸送用機械）
- 地震の影響により経営が困難となった事業者から資金繰りに関する相談があり、運転資金の融資を実施した。（金融機関）
- 製造工場が被災して、入ってこない商品がある。（薬局）
- 地震や豪雨により交通インフラが遮断され、輸送量が減少した。（運送）
- サッシメーカーが被災し、一部商材が入手できない状況であるが、代替品で対応している。（建築）

住宅・建築投資

○8月の住宅着工戸数は、前年同月比37．6%増加となった。
○貸家で前年同月比108．5%、分譲で同37．2%、持家で同13．6%増加となった。

○4－6月期の非居住用の建築着工床面積は、サービス業用で前年同期比97．4%　鉱工業用で同31．7%上昇、商業用で同▲68．7%、全体で同▲6．8%となった。



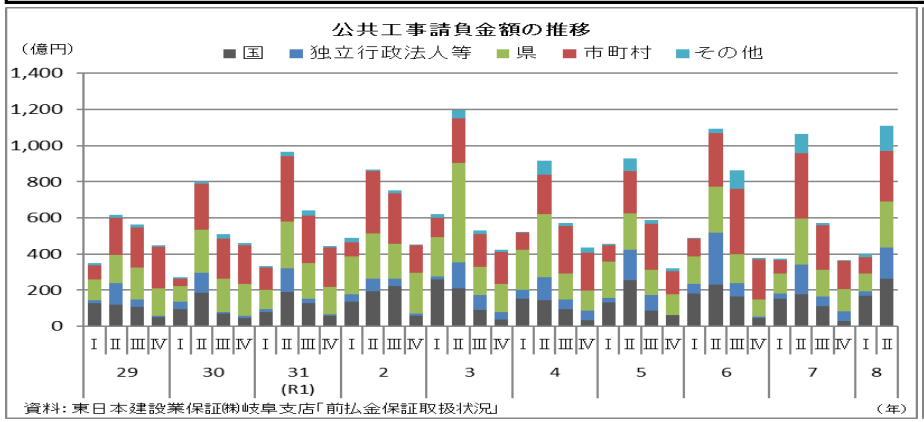


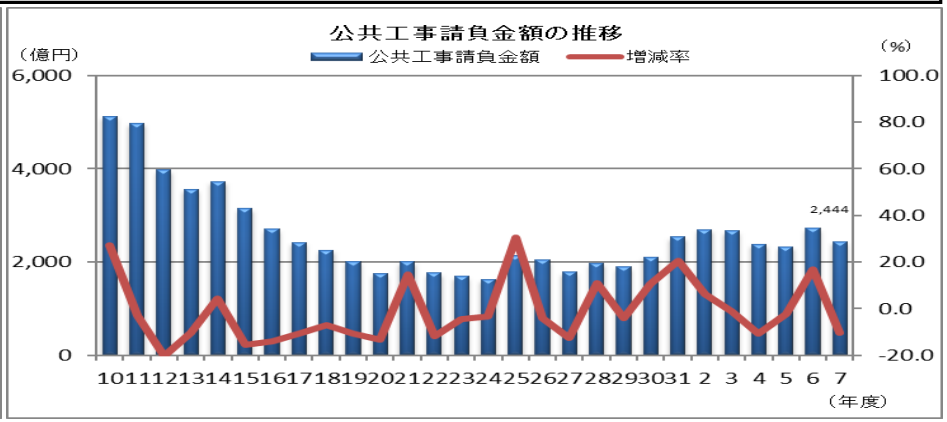
現場の動き

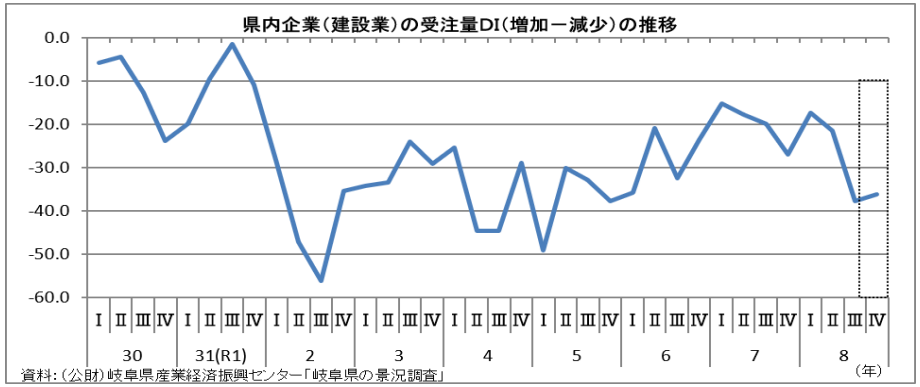
- ◆ 契約数は低調で顧客層の二極化が激しい。子育て世代は親からの土地やお金など援助がある層しか来場しない。住宅見学会では50代の「お一人様」の来場が多く、子育て世帯は少ない。(建築)
- ◆ スギの需要が高いが、新設住宅着工戸数が減少していると聞いており、実態との乖離が心配。(卸売)
- ◆ 住宅販売は金利上昇によりさらに悪くなった。(卸売)

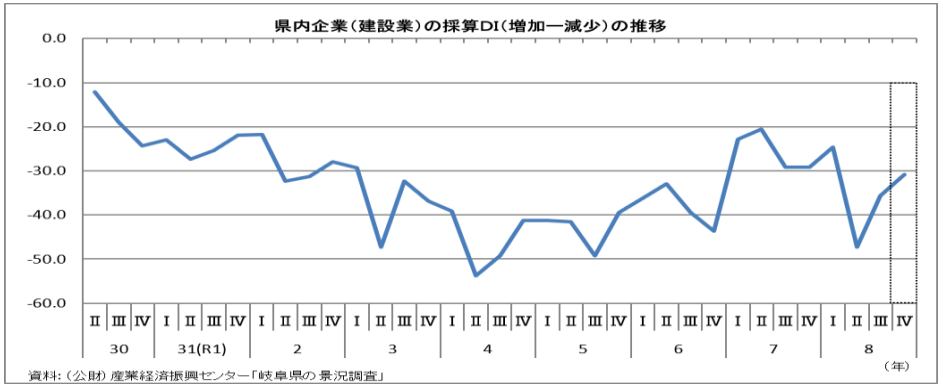
建設工事

〇4－6月期の発注者別の公共工事請負金額は、国で前年同期比47．5%、独立行政法人等で同6．1%、県で同1．2%、全体で同2．6%増加となった。
〇県内建設業の10－12月期の受注量DI見通しは前期比1．4ポイント、同採算DI見通しは4．8ポイント上昇となった。









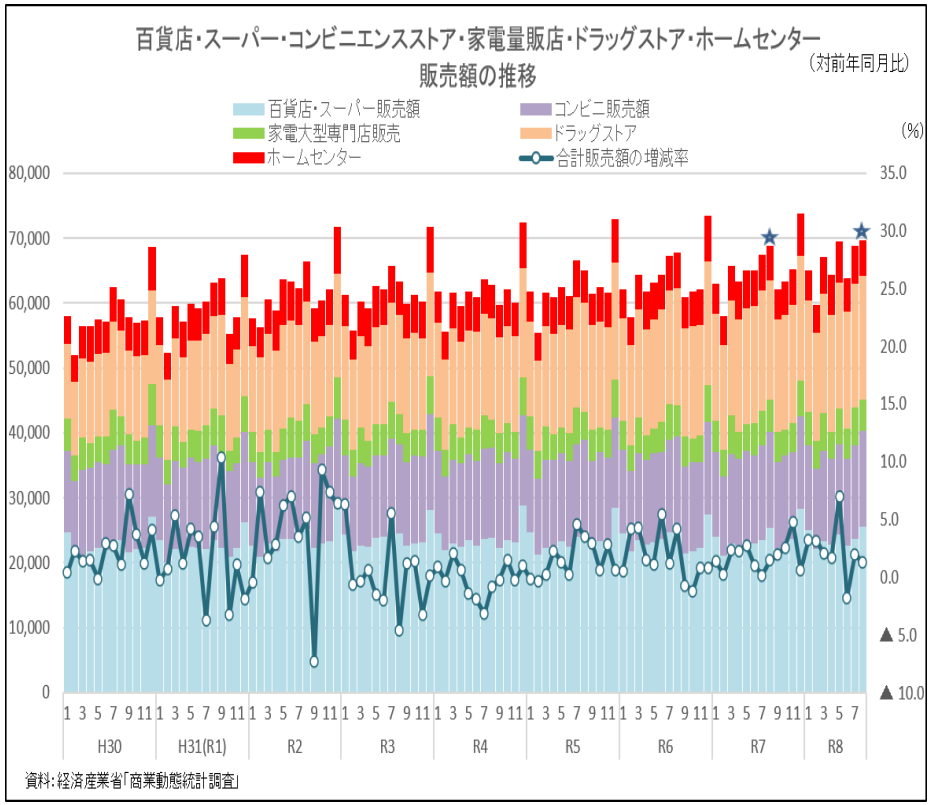
現場の動き

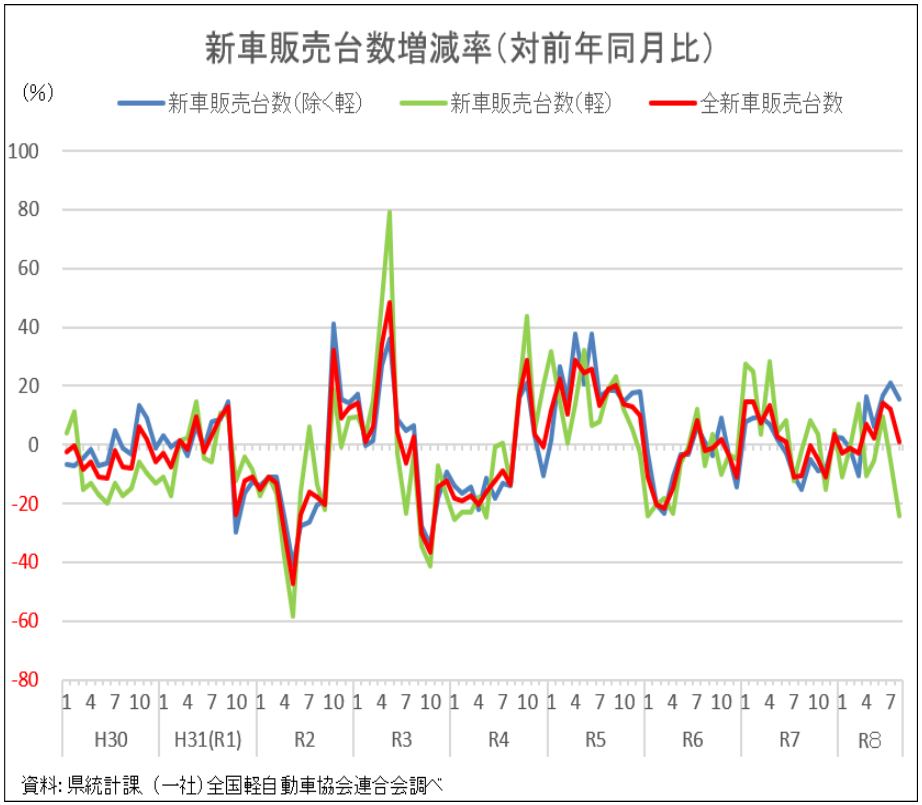
- ◆ 建設業の人材不足が懸念されており、特に若者の人材が不足している。
- ◆ 運送費も含め、仕入れコストは上昇し、積み上げによって物価の高騰に繋がっている。今後も上昇する見込み。
- ◆ 中東情勢の影響で原油・ナフサ高騰による資材価格の上昇や物流の遅れ、工期延長や採算悪化等、建設業界に明確な影響がでていたが、最近は少しずつ改善傾向にあると感じる。（以上、建設）

個人消費（流通・小売）

○8月はホームセンターで前年同月比6．3%、ドラッグストアで同2．9%、百貨店・スーパーで同0．5%上昇した一方、家電大型専門店、コンビで同▲0．6%となった。全体では1．3%と2ヶ月連続で前年同月比を上回った。

○8月の新車販売台数（除く軽）は、前年同月比15．6%増加となった。軽自動車では同▲24．0%となった。合算では同1．2%と5か月連続で前年同月比を上回った。





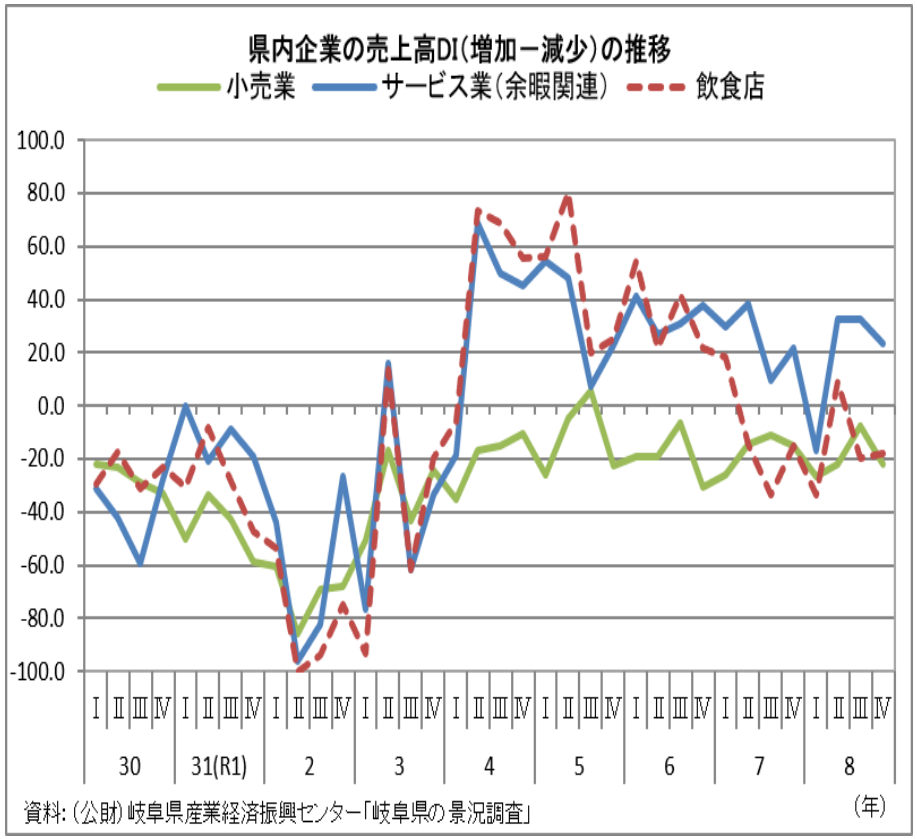
現場の動き

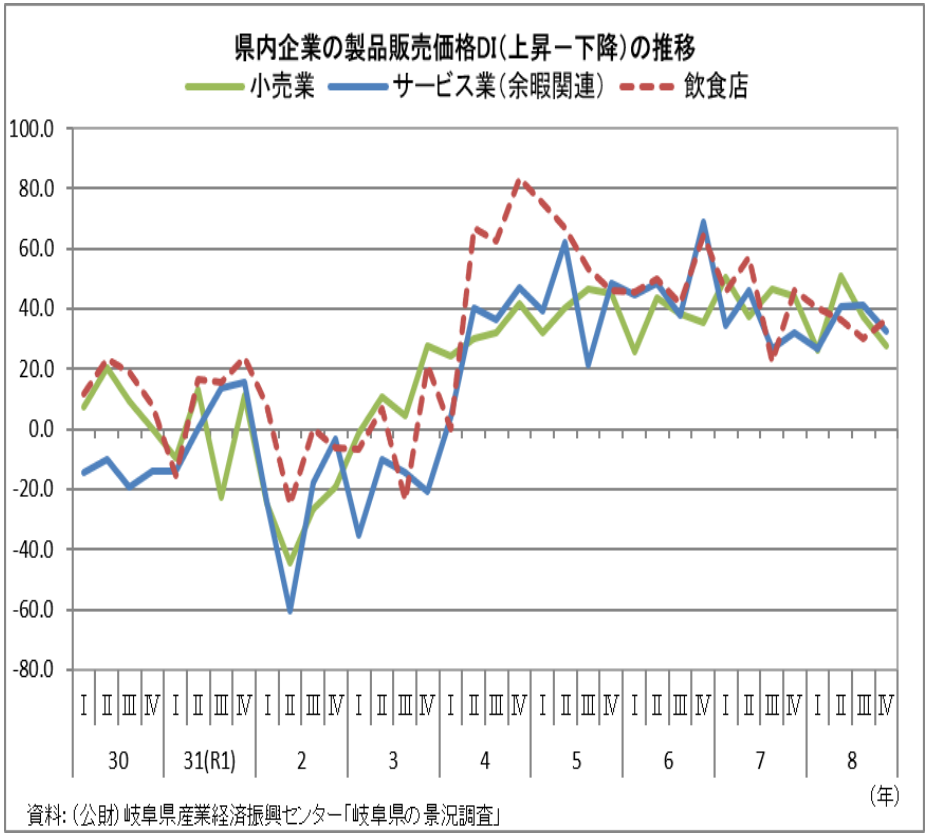
- ◆ 単月での売上は8月歴代1位、客数は過去最高。4−8月の累計は売上、客数共に過去最高となった。
- ◆ 一点単価の上昇影響もあり、買上点数が伸び悩む傾向が続いている。反転する材料や兆しが見られない。

（以上、県内商業施設）

個人消費（流通・小売）－２

○10－12月期の売上高DI見通しは、飲食店で前期比1．8ポイント上昇した一方、小売業で同▲14．3ポイント、サービス業（余暇関連）で同▲8．9ポイントとなった。
○同じく販売価格DI見通しは、飲食店で前期比6．4ポイント上昇した一方、小売業で▲9．8%、サービス業（余暇関連）で同▲8．9ポイントとなった。





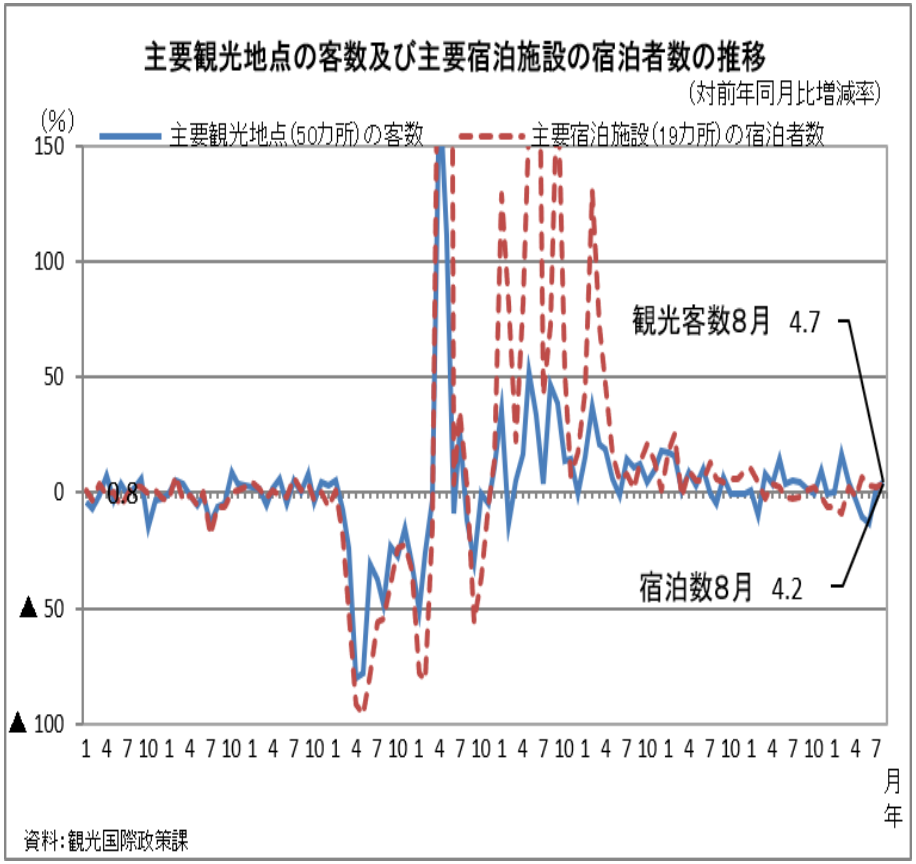
現場の動き

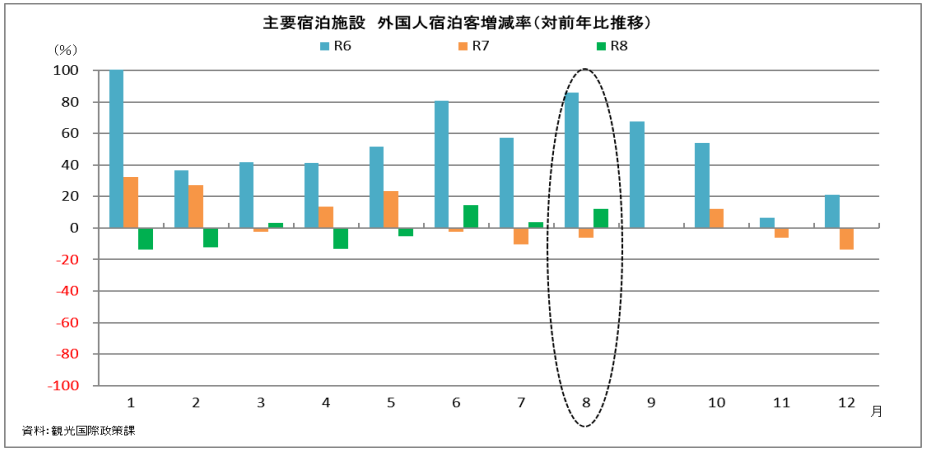
- ◆ テレビで取り上げられた商品の売上が好調。以前は効果が短期間だったが、SNSの効果で長続きするようになった。（和菓子）
- ◆ 国内外の観光客の動きは見られるものの、宿泊・飲食を除く物販は、物価高による消費者の節約志向もあり、人通りの増加が必ずしも各店舗の売り上げ増につながっているとは言えない。（高山商店街）

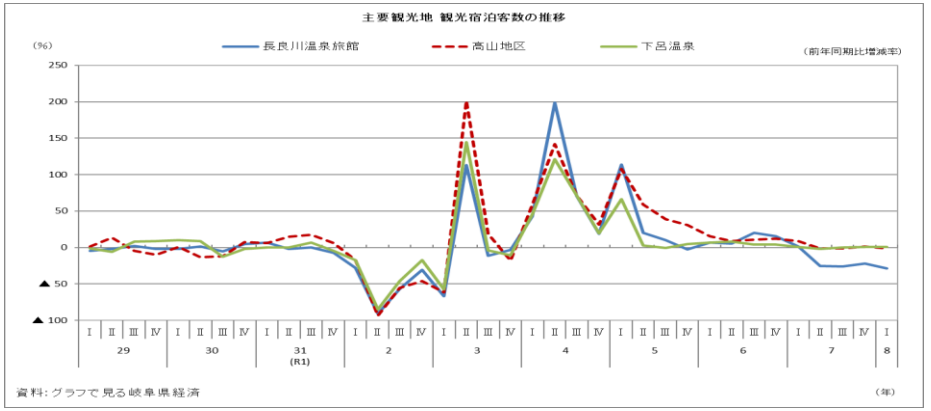
観　光

○主要宿泊施設における8月の宿泊者数は、前年同月比で4．2%増となっている。

○8月の主要宿泊施設における外国人宿泊者数は、前年同月比で12．0%増となっている。





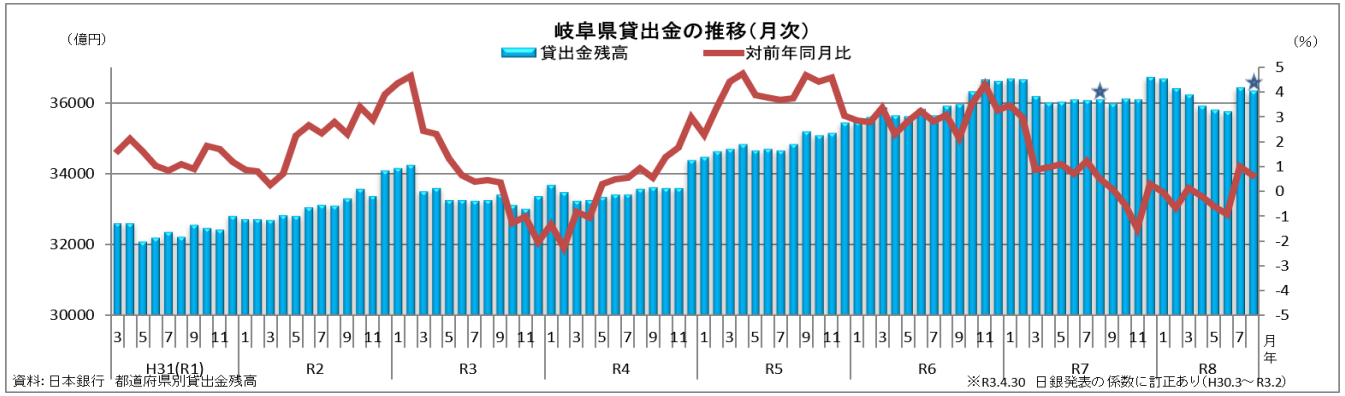


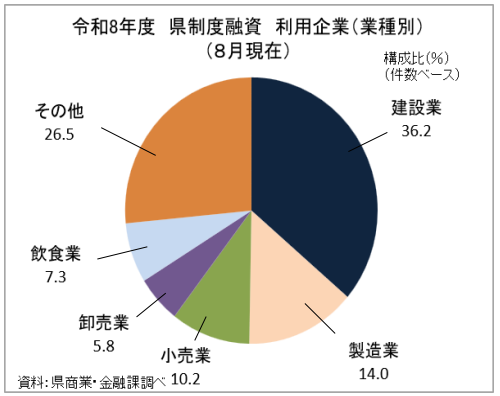
現場の動き

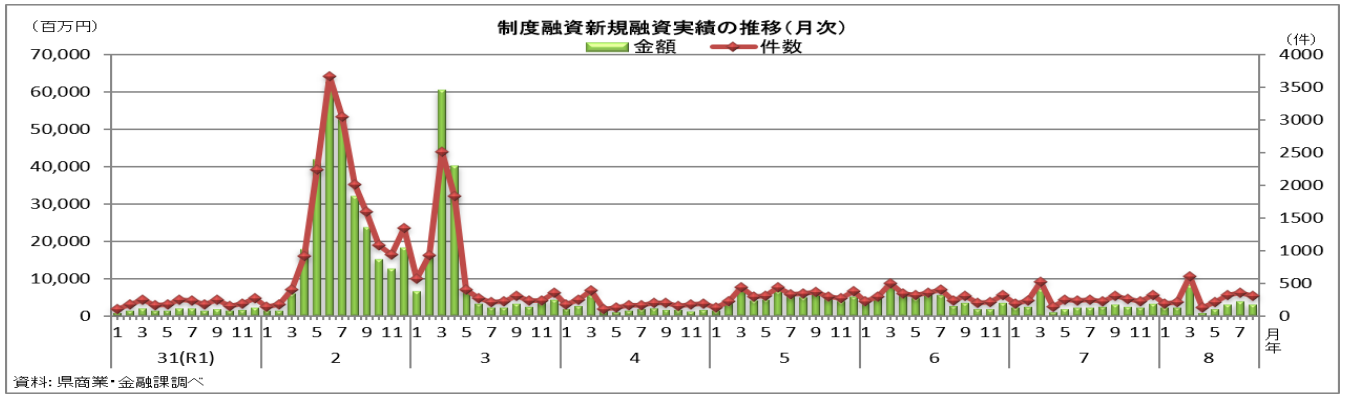
◆イラン情勢等の影響により、原材料等の高騰が続いている。（岐阜市、高山市、下呂市の宿泊施設）
◆人材不足が深刻化しており、日本人の人材確保が困難である。（岐阜市、高山市、下呂市の宿泊施設）
◆人件費上昇により、経営負担が増大している。（岐阜市、高山市、下呂市の宿泊施設）

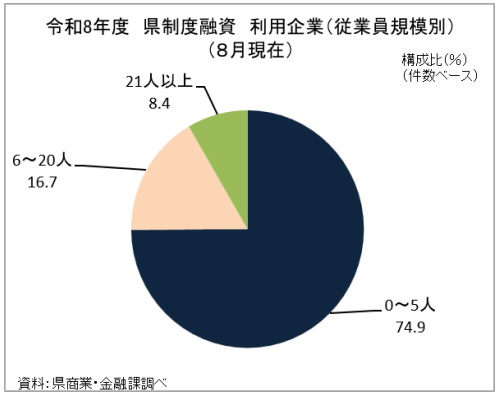
資金繰り

〇8月の岐阜県貸出金残高は、3兆6，319億円で前年同月比0．7%増加となった。
〇8月の制度融資実績は、金額が3，120百万円で前年同月比30．1%増加、件数は307件で同39．5%増加となった。
〇制度融資利用企業の従業員規模別は、5人以下の事業所が全体の74．9%を占めている。









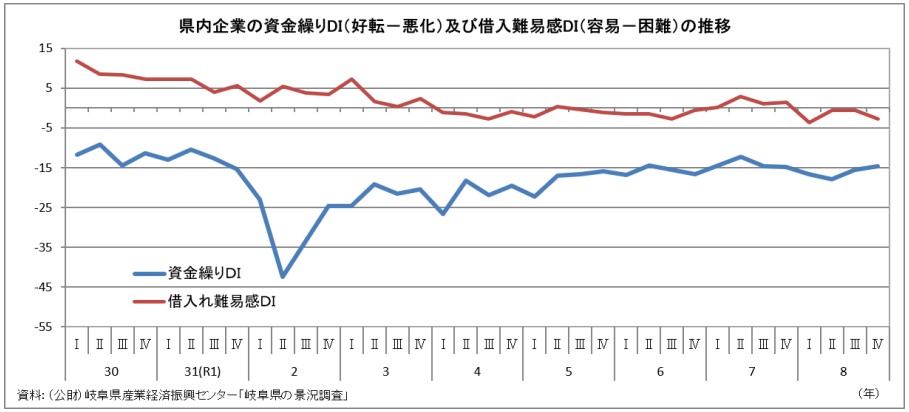
現場の動き

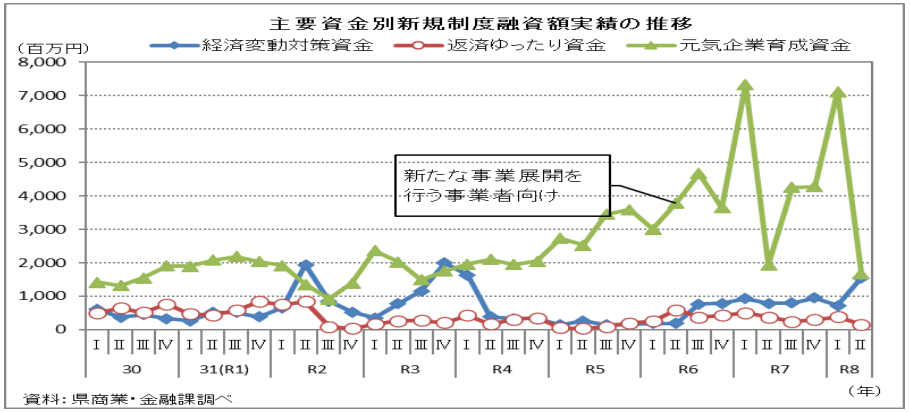
- ◆ 物価高、人件費高騰に伴い、運転資金の需要が高まっている。
- ◆ 中東情勢の影響による原材料の仕入れに備える目的や、円安の影響により木材、衣料仕入れ額の高騰が原因で運転資金の需要が高まっている。
- ◆ 不動産業に関する融資が特に増加傾向にある。

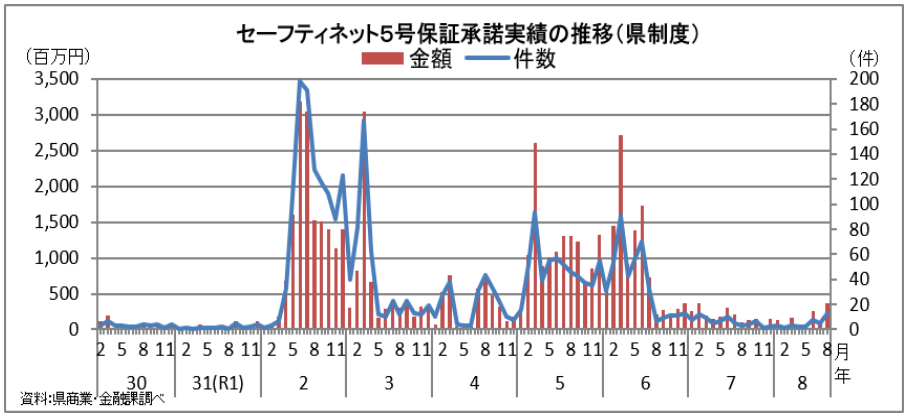
（以上、金融機関）

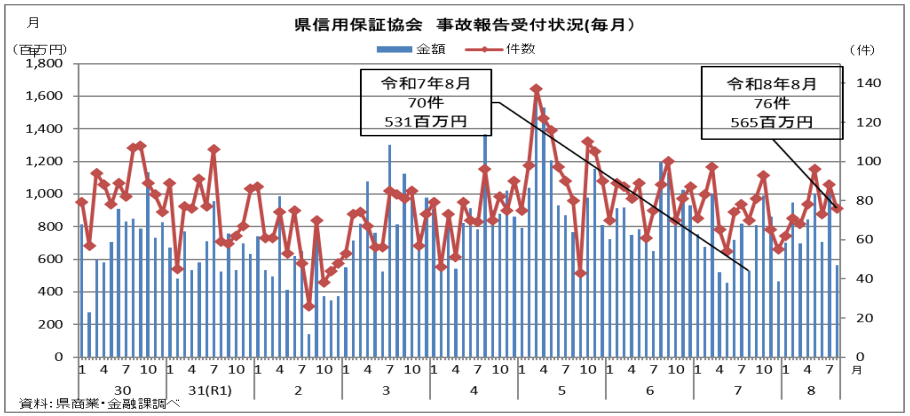
資金繰り－２

○10－12月期の資金繰りDI見通しは▲14．7で、前期比0．9ポイント増加となった。同借入難易感DI見通しは▲2．7で、前期比▲2．2ポイントとなった。
○4－6月期の主要資金別新規制度融資実績は、経済変動対策資金で前年同期比96．0%増加、返済ゆったり資金では同▲58．5%、元気企業育成資金で同▲13．5%減少となった。
○8月のセーフティネット5号保証承諾実績は、件数が13件で前年同月比333．3%増加、金額360百万円で同253．4%増加となった。
○8月の事故報告(保証協会付融資3ヶ月以上延滞)状況は、件数は76件で前年同月比8．6%増加、金額は565百万円で同6．5%増加となった。



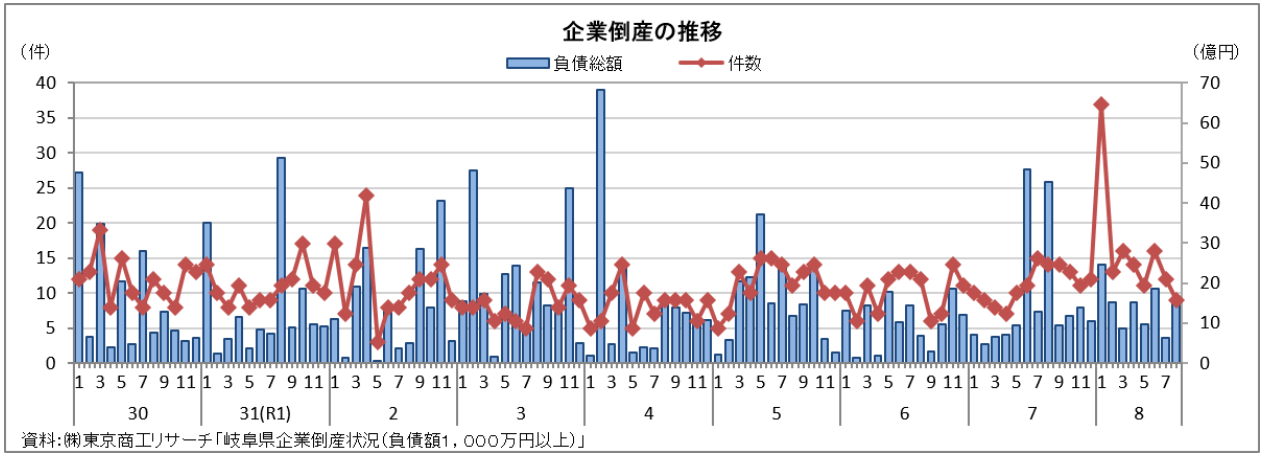




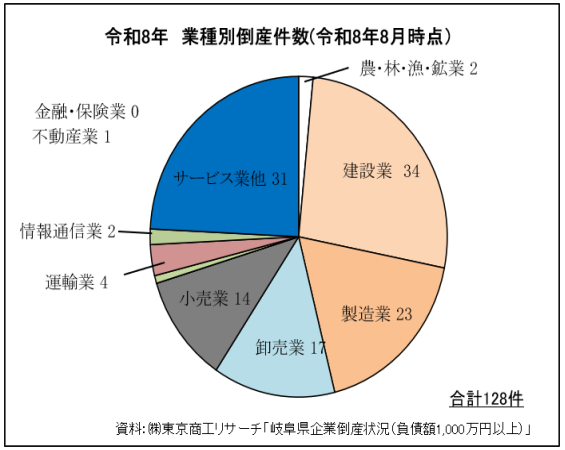


倒　産

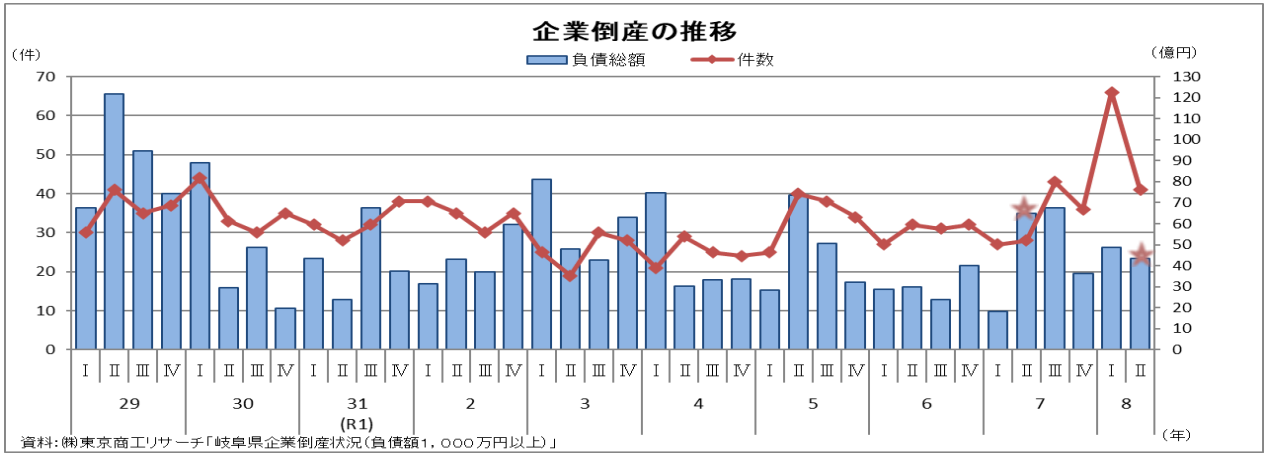
〇8月単月の倒産件数は9件、負債総額は前月比858百万円増加となり、1，489百万円となった。
〇令和7年8月は負債総額5億円以上の倒産が4件に対して、令和8年8月の同倒産は1件となった。
　負債総額は前年同月▲3，046百万円となった。



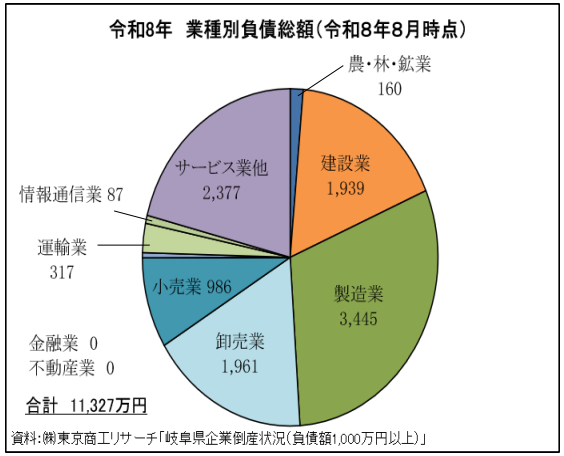
資料:㈱東京商工リサーチ「岐阜県企業倒産状況（負債額1，000万円以上）」



資料:㈱東京商工リサーチ「岐阜県企業倒産状況（負債額1,000万円以上）」



資料:㈱東京商工リサーチ「岐阜県企業倒産状況（負債額1，000万円以上）」



資料:㈱東京商工リサーチ「岐阜県企業倒産状況（負債額1,000万円以上）」

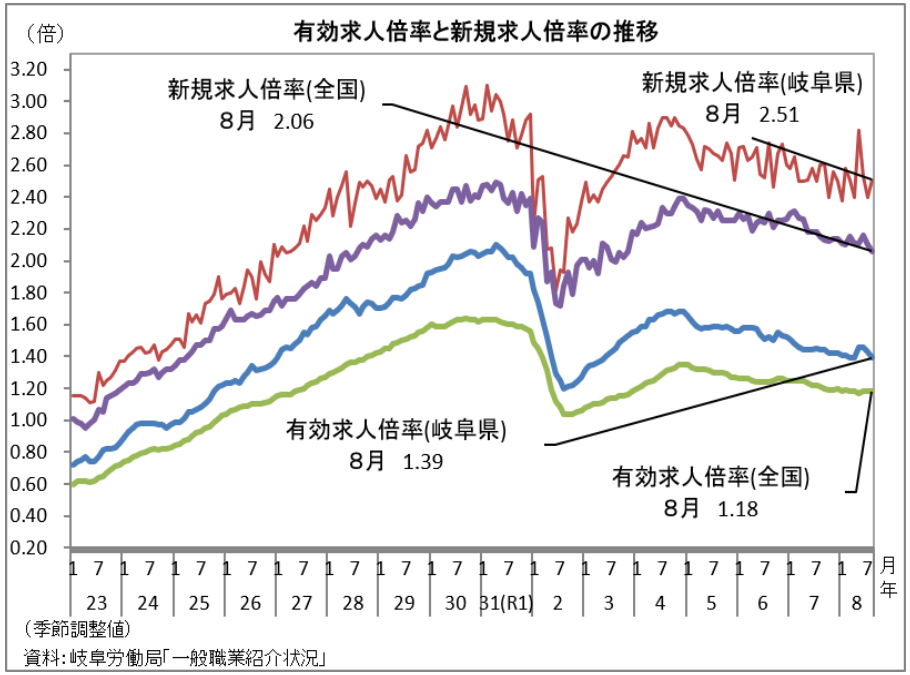
専門機関の分析（東京商工リサーチ・9月17日時点）

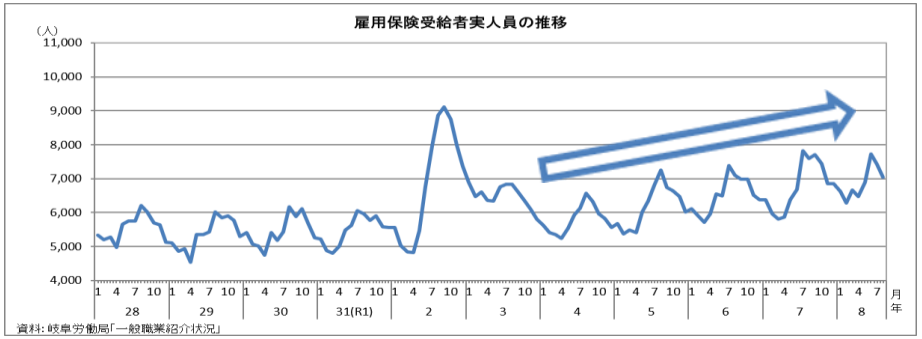
◆倒産件数は2026年2月以降10件台で推移してきたが、8月度は小康状態。大型倒産の発生はないが、あらゆるコスト負担への価格転嫁が出来ない小規模事業者の倒産が際立っている。物価高の要因である円安の是正が進まず、無理な賃上げや利上げによる借入金の返済負担の増加など、体力の乏しい企業は依然として厳しい環境下に置かれており、今後も物価高への対策を見出せない企業を中心とした倒産発生の増加が推測される。

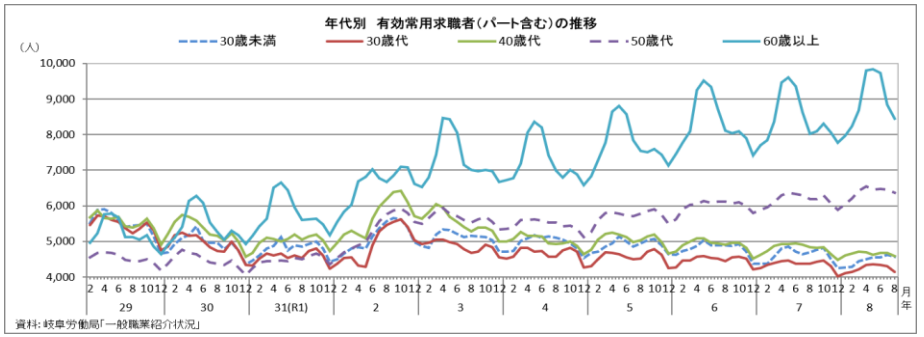
雇　用

〇8月の有効求人倍率は1．39倍と、前月比▲0．04ポイントとなった。
〇8月の新規求人倍率は2．51倍と、前月比0．11ポイントとなった。

〇8月の雇用保険受給者人員は、前年同月比▲7．2%となった。
〇有効常用求職者は、50歳代では42ヶ月連続で上昇、60歳代では12ヶ月連続で上昇した。







現場の動き

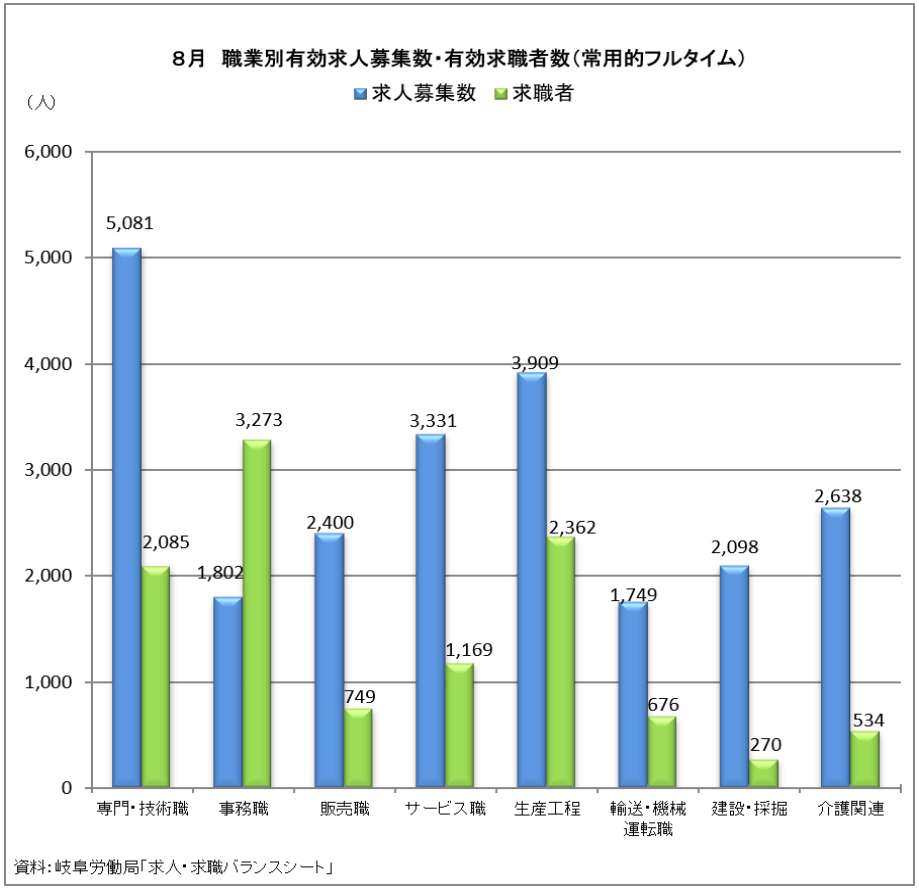
- 採用難で時短営業する売り場も一部あり、影響が出ている。（商業施設）
- 2027年度新卒については、大卒、高卒ともに採用。2028年度新卒採用準備も進めている。（輸送用機械）
- 技術者不足が管理職のプレイングマネージャー化を招き、労務管理が限界を迎えており、オールラウンダーの日本人を増やしている。（輸送用機械）
- 人手不足で社員を募集しているが人が集まらない状態。（木工）
- 全く採用できない（運輸）
- 中小・零細企業については、賃上げによる影響を特に受けていることから、今後、人材確保が一層困難になる可能性がある。（金融機関）

雇　用（職業別）

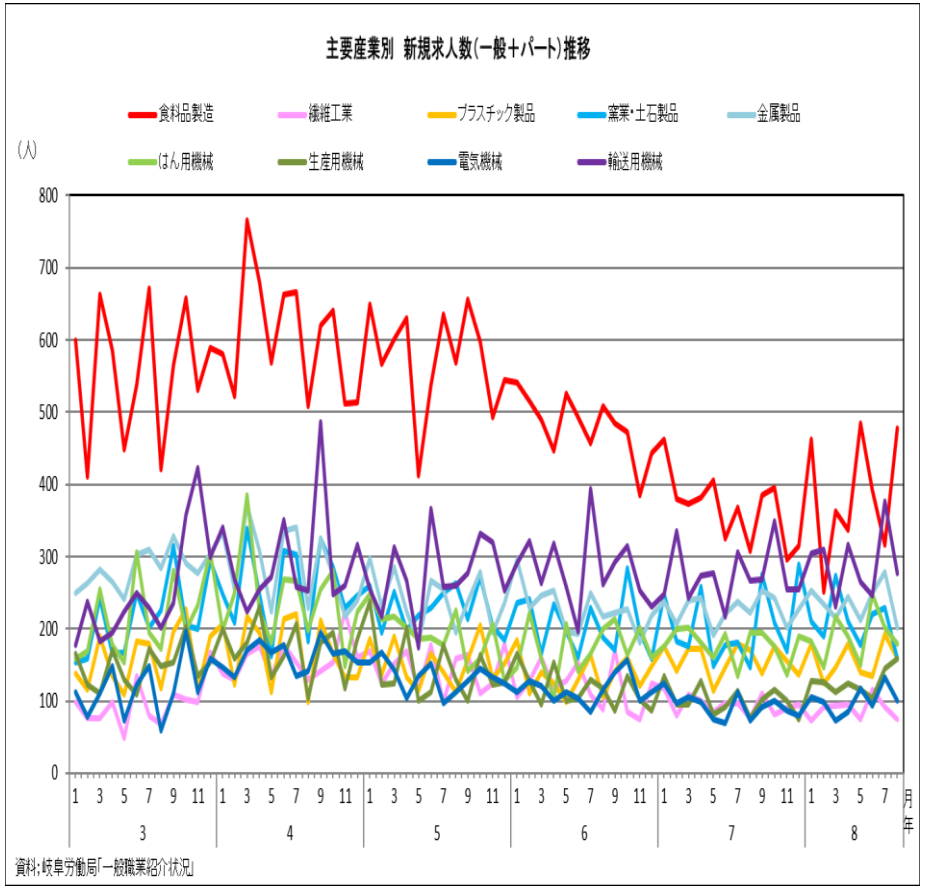
○有効求人倍率は、建設・採掘で7．77倍、介護関連で4．94倍、販売職で3．20倍、サービス職で2．85倍など、引き続き人手不足の状況は続いている。

○一方で、事務職の有効求人倍率は0．55倍に留まり、求職者のニーズと、求人側のニーズのミスマッチが続いている。

○8月の主要産業別の新規求人数は、生産用機械で前年同月比105．2%、食料品製造で同55．4%、電気機械で同40．3%、窯業・土石で同7．5%、輸送用機械で同3．8%増加した一方で、金属製品で同▲9．5%、はん用で同▲7．7%、プラスチック製品で同▲7．6%、繊維で同▲2．6%となった。

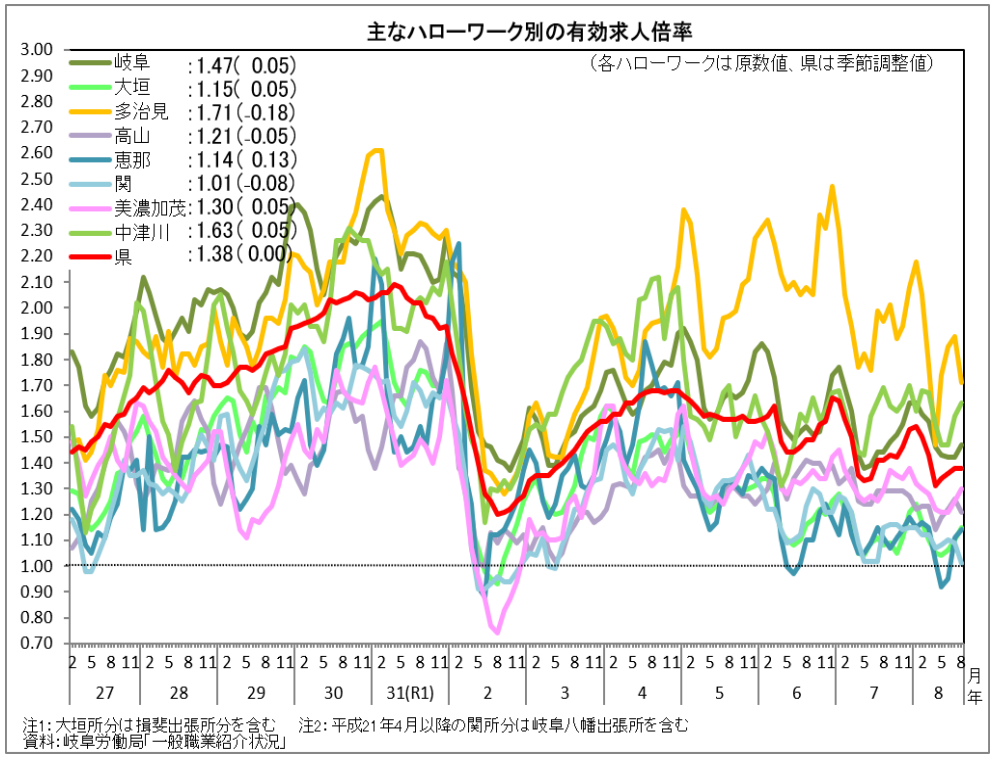


資料：岐阜労働局「求人・求職バランスシート」



資料：岐阜労働局「一般職業紹介状況」

雇　用（地域別）



○8月の主なハローワーク別の有効求人倍率は、多治見、高山、関、中津川で前月比減少となった。

現場の動き（前月比）

＜ハローワーク岐阜＞
◆求人者数は増加、求職者数は増加。
◆雇用保険受給者数は増加。

＜ハローワーク大垣＞
◆求人者数は増加、求職者数は増加。
◆雇用保険受給者数は増加。

＜ハローワーク多治見＞
◆求人者数は増加、求職者数は横ばい。
◆雇用保険受給者数は横ばい。

＜ハローワーク高山＞
◆求人者数は横ばい、求職者数は増加。
◆雇用保険受給者数はやや増加

＜ハローワーク恵那＞
◆求人者数は増加、求職者数は横ばい。
◆雇用保険受給者数はやや増加

＜ハローワーク関＞
◆求人者数は増加、求職者数は横ばい。
◆雇用保険受給者数は横ばい。

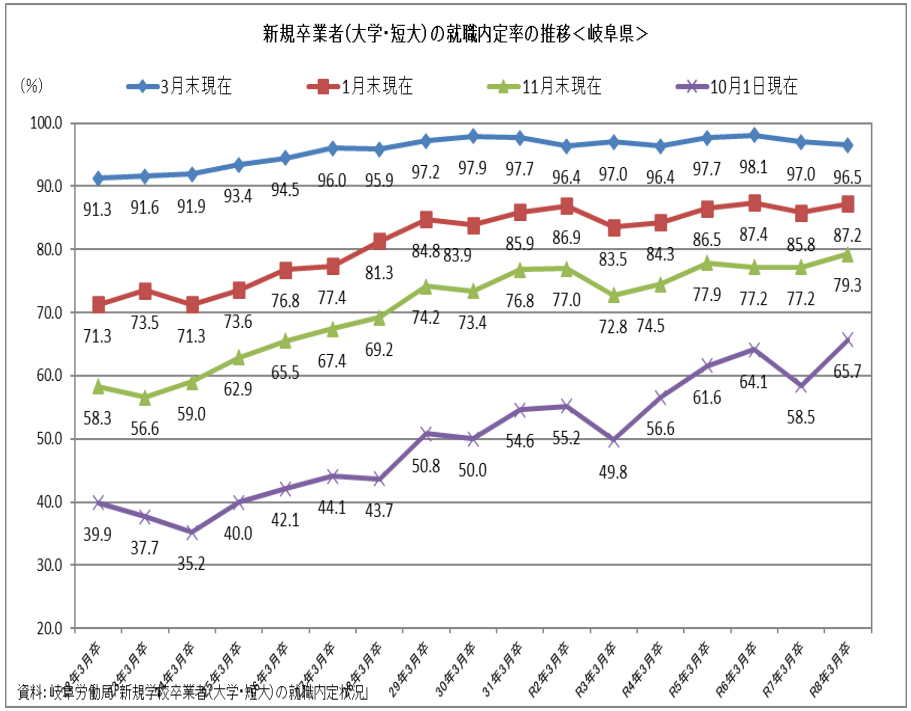
＜ハローワーク美濃加茂＞
◆求人者数はやや減少、求職者数は増加。
◆雇用保険受給者数はやや減少。

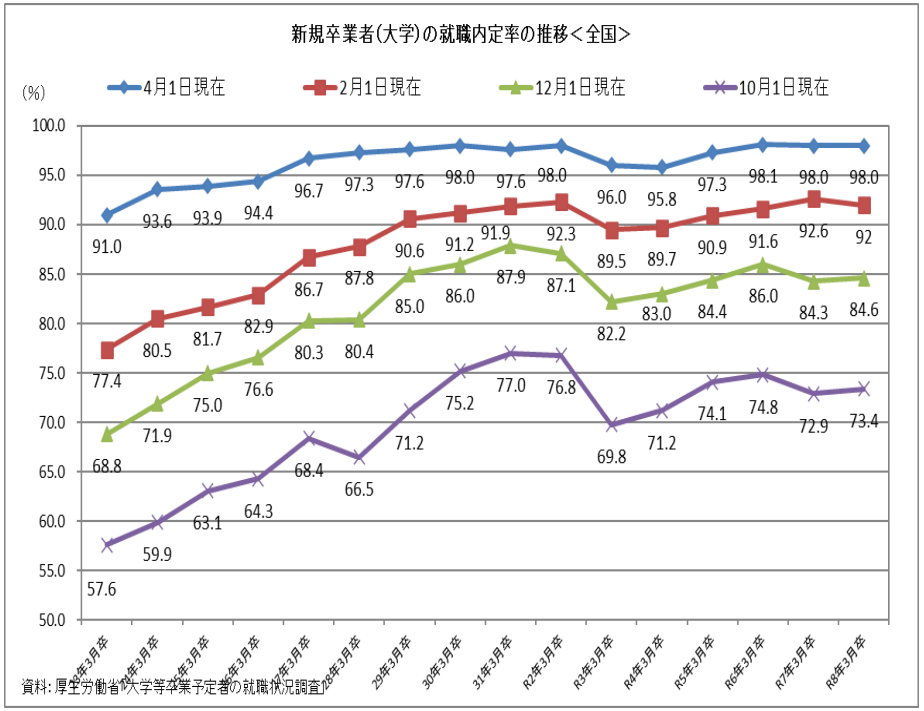
＜ハローワーク中津川＞
◆求人者数は横ばい、求職者数は増加。
◆雇用保険受給者数はやや増加。

＜窓口の様子＞※前月比
◆高山で混雑しており、大垣、多治見、関でやや増加、岐阜、美濃加茂、中津川で同じくらいの状況。

雇　用（大学・短大新卒者の就職）

○岐阜県の令和8年3月末現在の大学・短大卒業者（令和8年3月卒業）の就職内定率は、96．5%であり、前年同時点と比べ▲0．5ポイント減少となった。
○全国の令和8年4月1日現在の大学卒業者（令和8年3月卒業）内定率は98．0%であり、前年同時点と同率となった。





現場の動き（2026卒、2027卒の動きなど）

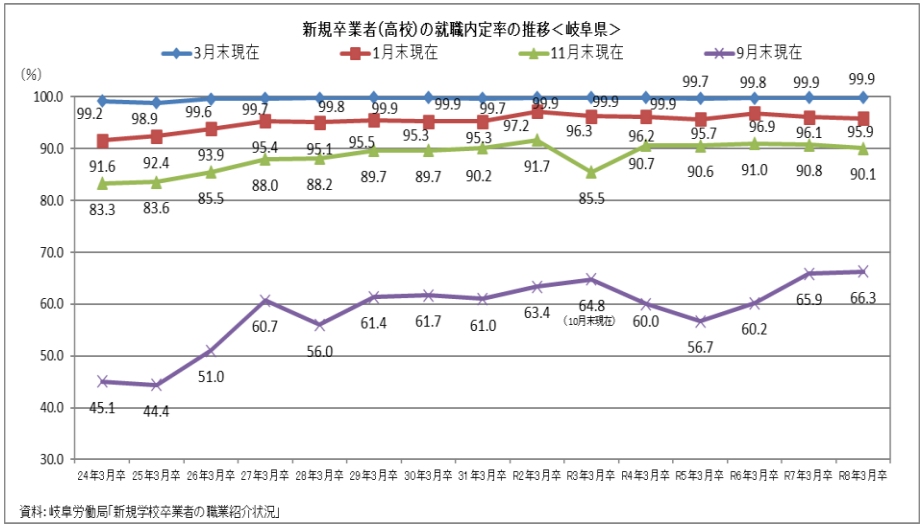
＜大学へのヒアリング＞

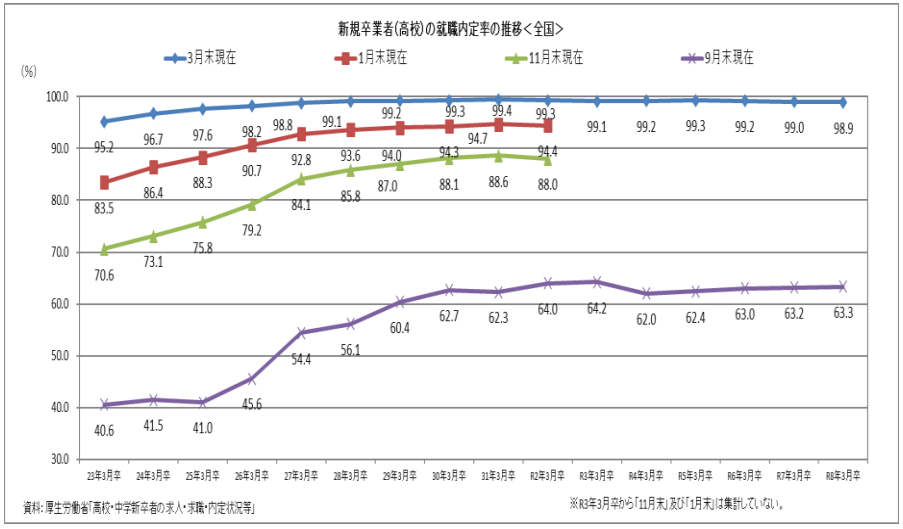
- ◆ 例年比較で内定率が少し高めになっており、売り手市場が影響していると見ている。
- ◆ 地元就職率について、岐阜県67．2%と前年比1ポイント増である。県内企業の露出を増やした結果、企業選考に影響したとみている。
- ◆ 早期化の影響で長い期間就職活動をしているため、「本当にここでいいのか」「もっと自分にあった企業があるのではないか」と就職先企業決定の踏ん切りがつかない学生も多い印象。　（以上、岐阜・愛知県内大学）

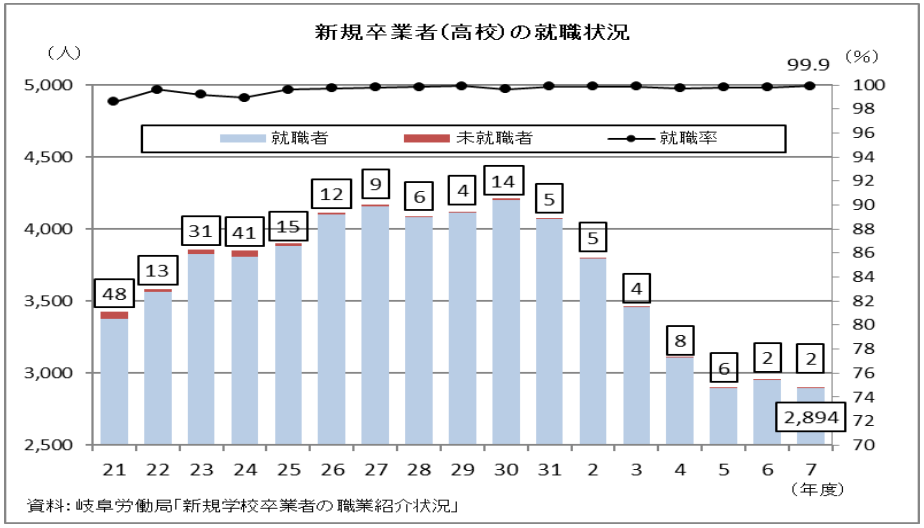
雇　用（高校新卒者の就職）

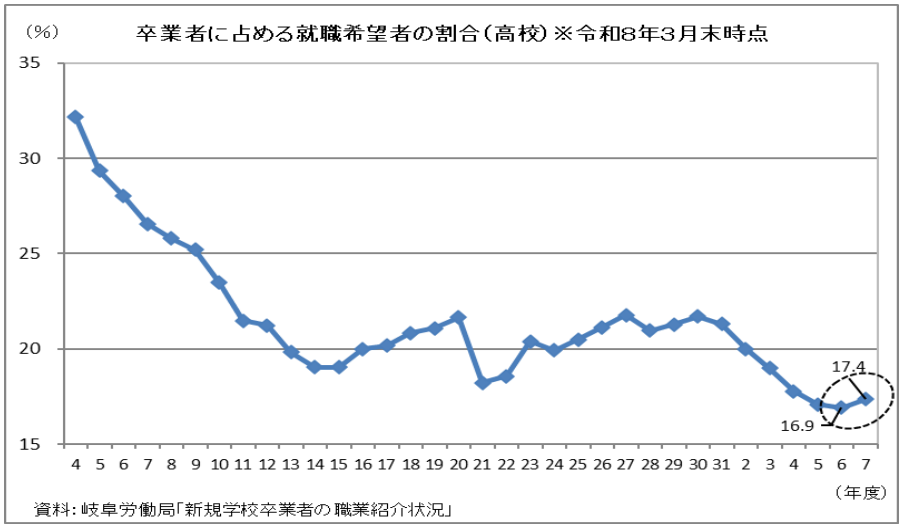
○岐阜県の令和8年3月末現在の高校卒業者（令和8年3月卒業）の就職内定率は99．9%であり、前年同時点と同率となった。

○全国の令和8年3月末時点の高校卒業者（令和8年3月卒業）の就職内定率は98．9%であり、前年同時点と比べ▲0．1ポイント減少した。



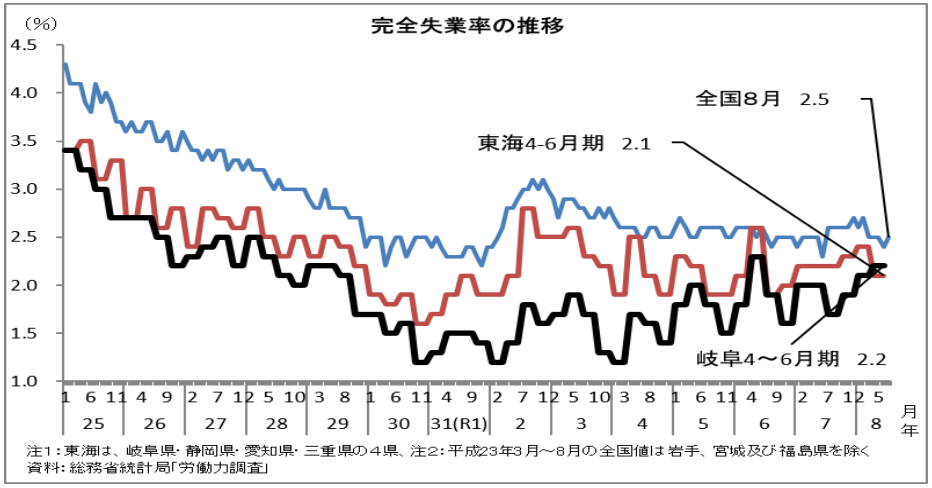


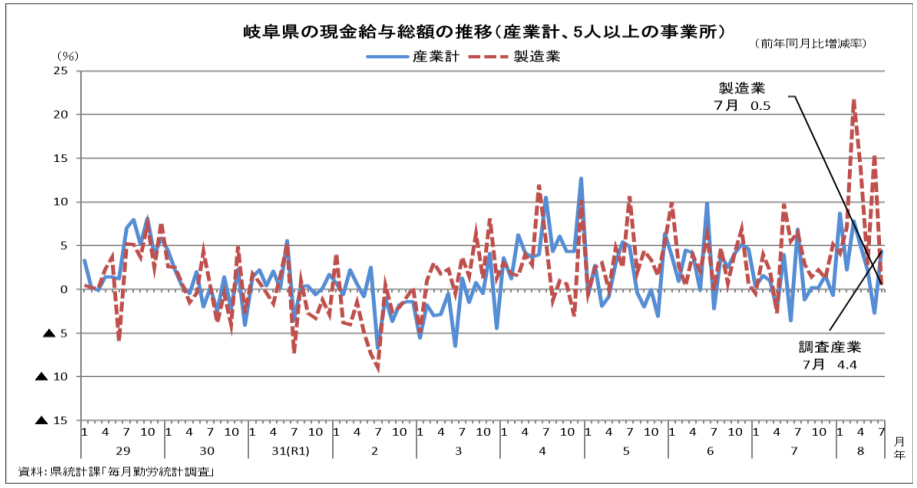


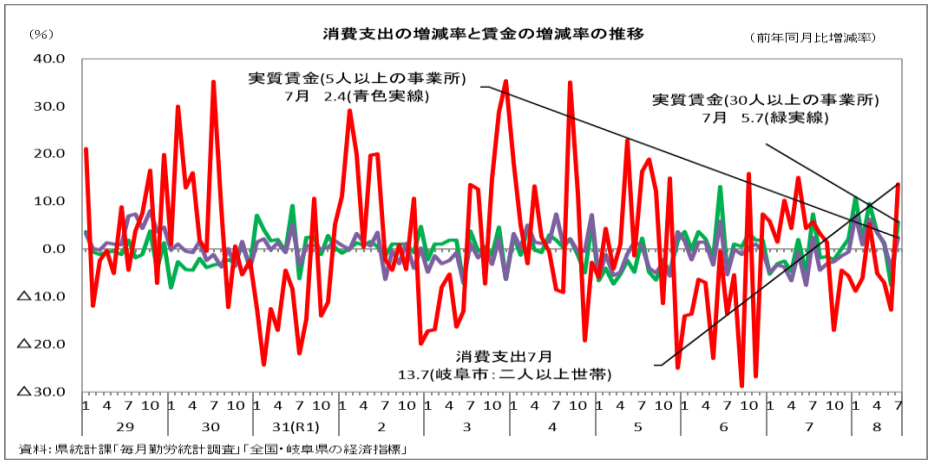


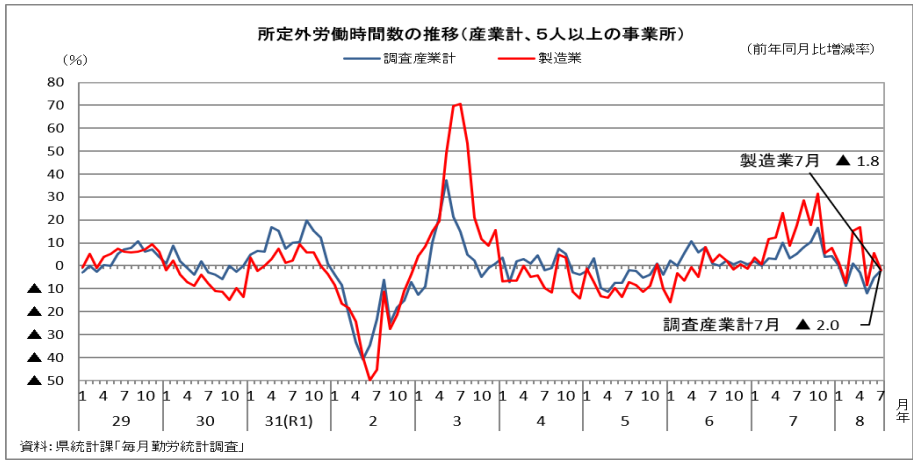
雇　用（完全失業率等）

○全国の８月の完全失業率は２．５％で前月比０．１％上昇となった。岐阜県の４－６月期の平均は２．２％で前期比０．１％増加となった。
○７月の現金給与総額は、調査産業計で前年同月比４．４％、製造業で同０．５％増加となった。
○７月の実質賃金増減率は、３０人以上の事業所で前年同月比５．７％、５人以上で２．４％増加となった。７月の消費支出については同１３．７％となった。
○７月の所定外労働時間数は前年同月比で▲２．０％となった。









＜経済・雇用の現状（総括）＞

○製造業は、7月の鉱工業生産指数は前月比2．8%となった。ヒアリングでは、航空部品については需要拡大に伴い、新規・既存取引先から引き合いが増加しており、製造ラインを増やして対応しているとの声がある一方、中国市場で日本車が売れない状況であるとの声も聞かれた。

○地場産業は、7月の鉱工業生産指数は、窯業・土石、食料品で下降した。ヒアリングでは、全体の景況感は悪くない状態で、差別化商品やこだわり商品の引き合いが強く、海外の取引や新規の問い合わせも増加しているといった声がある一方、業界全体の動向を見極めながら価格改定に踏み切らざるを得ないため、タイミングが難しく、市場が縮小している感じが否めないといった声が聞かれた。

○設備投資は、8月の全国の金属工作機械受注額は、前年同月比65．3%増加となった。ヒアリングでは国や県、市町村等の補助金を活用し、高圧受電設備の入れ替えや太陽光発電設備の導入を決め、近日中に工事を開始するといった声や、航空、半導体関連産業などは先行きが明るく、増産対応等を目的とした設備投資に積極的な動きが見られるといった声があった。

○個人消費は、8月の販売額は、全体で前年同月比1．3%となった。ヒアリングでは、単月での売上は8月歴代1位、客数は過去最高となり、4-8月の累計は売上、客数共に過去最高になったといった声がある一方、一点単価の上昇影響もあり、買上点数が伸び悩む傾向が続いており、反転する材料や兆しが見られないといった声があった。

○観光は、宿泊者数は、前年同月を上回った。宿泊施設からのヒアリングでは、人手不足に苦慮しているとの声が多くあり、外国人人材を活用する施設もあった。

○企業の資金繰りは、8月の制度融資実績は前年同月比30．1%増加となった。融資動向については物価高、人件費高騰に伴い、運転資金の需要が高まっているといった声が聞かれた。

○雇用面は、8月の有効求人倍率は1．39倍と前月比▲0．04ポイントとなった。ヒアリングでは、2027年度新卒は、大卒、高卒ともに採用があり、2028年度新卒採用準備も進めているといった声がある一方、中小・零細企業については、賃上げによる影響を特に受けていることから、今後、人材確保が一層困難になる可能性があるといった声があった。